

おすすめ! 日本と世界の子どもの本

Japanese and Translated Children's Books

2026



JBBY

h. 2026

表紙画

あべ弘士（あべ・ひろし）

1948年北海道旭川市生まれ。旭川市在住。1972年から25年間、旭山動物園の飼育係として様々な動物を担当する。飼育係たちの間で話しあった“行動展示”の夢を絵として残し、旭山動物園復活の鍵となった。1996年動物園を退職し、現在は絵本制作を中心に、全国でワークショップなども行っている。

著書に、『どうぶつえんガイド』『ライオンのながいいちにち』『宮沢賢治「旭川。」より』『よあけ』『アーユーション・マジック』『あらしのよるに』『エゾオオカミ物語』『クマと少年』『オサム』『夏』などがある。

2026年国際アンデルセン賞・画家賞にノミネートされる。

もくじ

- 2 | 選書・執筆チーム紹介
- 3 | はじめに
- 4 | おすすめ！日本の子どもの本の絵本（15点）
- 7 | 日本の読みもの（20点）
- 10 | 日本のノンフィクション（20点）
- 14 | まだまだあります おすすめ本（18点）
- 15 | おすすめ！世界の子どもの本の絵本（17点）
- 18 | 世界の読みもの（18点）
- 21 | 世界のノンフィクション（8点）
- 23 | まだまだあります おすすめ本（18点）

選書・執筆チーム紹介

五十音順



奥山 恵（おくやま・めぐみ）【日本】

児童文学評論家。都立高校教員を経て、現在は児童書専門店 Huckleberry Books 店主。白百合女子大学非常勤講師。著書に『〈物語〉のゆらぎ 見切れない時代の児童文学』（くろしお出版）『多層性のレッスン』（りょうゆう出版）、共著に『「時」から読み解く世界児童文学事典』（原書房）、『子どもの読書を考える事典』（朝倉書店）、『作家とランチ』（りょうゆう出版）など。JBBY 会員。



近藤君子（こんどう・きみこ）【日本・世界】

公共図書館、地域開放型小学校図書館、大学図書館に勤務後、現在、中高一貫校図書館で学校司書として勤務している。『子どもの本棚』（日本子どもの本研究会発行）選定委員。『子どもと読書』（親地連発行）編集担当。JPIC 読書アドバイザー。科学読物研究会会員、児童図書館研究会会員、JBBY 会員。



坂口美佳子（さかぐち・みかこ）【日本・世界】

科学読物研究会会員。「科学の本と体験のキャッチボールを」をモットーに、科学あそび、小・中・大学の授業、図書館、児童館職員、読み聞かせボランティア対象の研修会などで毎年約 270 回講師として活動。著書に『科学のふしぎ 1』（フレール館）、『いのちと福祉のねだん』（大月書店）、訳書に『ファラデーと電磁力』（パウアーズ作、玉川大学出版部）、共著に『理科読をはじめよう』（岩波書店）など。JBBY 会員。



さくま ゆみこ【日本・世界】

翻訳家、編集者、元青山学院女子短期大学教授。アフリカ子どもの本プロジェクト（JACBOP）代表。出版社に勤務しながら、子どもの本の翻訳を始め、約 250 点の訳書がある。「マディソン通りの少女たち」シリーズ（ウッドソン作、ポプラ社）で 2002 年 IBBY オナーリスト・翻訳作品部門に選出された。著書に『エンザロ村のかまど』（福音館書店）など、最近の訳書に『わたしは反対！』（リヴィ文、子どもの未来社）などがある。JBBY 前会長。



笹岡智子（ささおか・ともこ）【世界】

イタリア書籍専門店勤務後、板橋区立中央図書館（いたばしポローニヤ絵本館併設）職員として、外国語絵本の蔵書構築、「絵本のまち板橋」事業、ポローニヤ市立サロルサ児童図書館との姉妹図書館交流などに携わる。2023 年 4 月より（公財）東京子ども図書館職員。児童図書館研究会会員。JBBY 理事。



神保和子（じんぼう・かずこ）【世界】

家庭文庫・子どもの本の家ちゅうりつが主宰。中央大学非常勤講師（司書課程児童サービス論）。専門は幼児教育学。幼稚園教諭、図書館司書、保育専門学校専任講師を歴任。図書館や幼稚園、子育て支援施設等で絵本講座、わらべうた講座などの講師を務めている。日本子どもの本研究会理事、日本保育学会会員、絵本学会会員。元 JBBY 理事。



土居安子（どい・やすこ）【日本・世界】

大阪国際児童文学振興財団（IICLO）理事・総括専門員。読書活動や日本児童文学史に関する研究を行うと同時に、教員、司書等に対し、読書活動にかかわる研修や、国内外の児童文学作家の講演会やシンポジウムの企画等を行っている。共編著書に『ひとりでもめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド 200』（評論社）などがある。2018 年と 2020 年の国際アンデルセン賞国際選考委員。JBBY 専務理事。



野上 暁（のがみ・あきら）【日本】

本名・上野明雄。小学館に勤務し、『小学一年生』編集長、児童図書担当部長、取締役、小学館クリエイティブ代表取締役社長を歴任。主著に『日本児童文学の現代へ』（パロル舎）、『越境する児童文学』（長崎出版）、『子ども文化の現代史』（大月書店）、編著に『わたしが子どものころ戦争があった』（理論社）など。日本ペンクラブ副会長、JBBY 前副会長。

はじめに

JBBY (日本国際児童図書評議会) は、IBBY (国際児童図書評議会) の日本支部として、1974年に創設されました。IBBYは、子どもたちが生きやすい平和な未来を築くため、子どもの本を通してさまざまな国や地域との相互理解を深めようという国際ネットワークで、現在85の国と地域が加盟しています。そして「子どもの本の世界大会」の開催、「国際アンデルセン賞」、「IBBY朝日国際児童図書普及賞」などの贈賞、災害や戦争などの不安定な状況下にある子どもを本で支援する「チルドレン・イン・クライシス基金」の提供などを行っています。

JBBYは、子どもの本を通して日本と世界の間を橋を架ける活動を行っています。その一環として、国際的な賞などへの日本の作家や画家の推薦や作品の出展を通して、日本の子どもの本を世界にアピールしています。また、日本児童教育振興財団や出版社のみなさまのご協力のもと、2015年度からは、毎年、海外に紹介したい日本のすぐれた子どもの本約80点を英文で紹介する *Japanese Children's Books* を発行し、海外のブックフェアや国際会議、大使館や図書館などで役立てていただいています。2018年からは、その日本語版である「おすすめ！日本の子どもの本」とともに、日本の読者に読んでほしい翻訳作品を集めた「おすすめ！世界の子どもの本」の2種のブックリストを作成してきました。2025年度からはこの2種を合本にしてお届けしています。

ブックトークや読み聞かせ、図書館のコーナー作りなどにもどうぞご活用ください。こうした作品が国際理解の一助となり、日本じゅうの子どもたちの心に種をまくことにつながるように願っています。

2026年3月 JBBY会長 宇野和美

『おすすめ！日本と世界の子どもの本 2026』について

このブックリストは、長年子どもの本にかかわる仕事をしている8名が討議を重ねて、選書・執筆しました。日本編（海外に紹介したい日本の子どもの本）と世界編（日本の読者に読んでほしい翻訳作品）の2部構成で、それぞれ（1）絵本（2）読みもの（3）ノンフィクション の3つのカテゴリーに分かれています。各カテゴリー内は、対象年齢別に書名の五十音順で掲載しています（対象年齢は出版社の表示とは異なる場合があります）。

紙幅の関係で解説が掲載できなかったおすすめ本もリストアップし、それぞれの巻末に掲載しています。

「日本編」の選書方針は……

- ・ 日本で出版された海外にも紹介したい児童書
（この号では2024年7月～2025年4月に出版された作品）
- ・ 日本の子どもの本を代表するような、すぐれた内容の作品
- ・ 海外の子どもたちが、日本の文化や、日本の子どもの現状に触れることのできるような作品
- ・ 海外での翻訳出版を期待したい作品
- ・ 日本の子どもたち、保護者、図書館・出版関係者にも紹介したい作品

「世界編」の選書方針は……

- ・ 原作の内容および翻訳がすぐれている児童書
（この号では2024年1月～2025年4月に日本で出版された作品）
- ・ 子どもと本をつなぐ人たち、保護者、図書館・出版関係者にぜひ紹介したい作品
- ・ 日本の子どもたちが海外の歴史や文化に触れ、読書の楽しみを広げられる作品
- ・ 世界の多様性について理解を深められる作品

* 「日本編」と「世界編」は、選書対象の期間が異なります。

おすすめ！日本と世界の子どもの本
Japanese and Translated Children's Books



「おすすめ！日本と世界の子どもの本 2025」
2025年版のPDFはJBBYホームページに
掲載しています
→ <https://jbbj.org/booklist>



「日本編 2026」の英語版
*Japanese Children's Book
Recommendations from JBBY
(Japan's Section of IBBY)*
・ 解説文の英訳（PDF）
・ 書影、書誌情報を掲載したリーフレット
いずれもJBBYのホームページからご覧いただけます
→ <https://jbbj.org/japanese-childrens-books-jbbys-recommendation>



凡例

紹介する本には、書名のあとに以下を記しています。

作者 | 画家、翻訳者など | 出版社 | 出版年 | 原書出版国(言語) * 世界編のみ | ページ数 | サイズ(縦横, cm) | 本体価格(初版発行時) | 読者対象 | キーワード

(書誌情報は出版社からの申告をもとに作成)

紹介文の末尾には執筆者の名前を記しました。

* 選者自身の著書は、別の選者が選書・執筆しました。

おすすめ！ 日本の子どもの本

日本の絵本



うみへ やまへ

三浦太郎 作

偕成社 | 2024 | 38p | 28×24 | 1500円
| 幼児から | 旅、乗り物、家族

考え抜かれた構成により1冊で2つの物語が楽しめるユニークな作品。左から開くと白い文字のお話で「うみへ」。山に住む少年が白い車に乗ってお父さんの生まれた海辺の町へ向かう。右から開くと赤い文字のお話で「やまへ」。海辺で暮らす少女がお母さんの生まれた山の家まで赤い車で旅をする。少年が乗った白い車と少女の乗った赤い車のそれぞれの視点に合わせて読み進めると、同じ場面の絵が違って見えてくるのが不思議だ。デザイン的でカラフルに細部まで描き込まれた道中の絵の中から白と赤の車を探すのも楽しい。(野上)

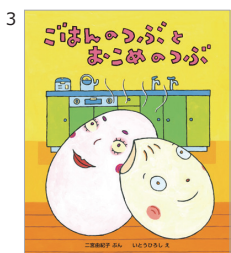


おるすばん

森洋子 作

福音館書店 | 2024 | 32p | 27×20 | 1200円
| 幼児から | 留守番、不安、古道具、ふしぎ

おかあさんがおばあちゃんのお見舞いに行くので、あっちゃんのはじめてのお留守番。ひとりで積み木で遊んだり、暗くてひんやりした台所で水を飲もうとしたりするうちに、不安がつり、思わずこたつにもぐりこむ。ところが、台所の道具や野菜たちが、こっそり体操を始めると、その楽しそうな様子につられて、あっちゃんも踊り出す。モノクロの緻密な鉛筆描きに赤やオレンジ色が効果的に使われた絵からは、子どもの不安や豊かな想像力が伝わってくる。ダイヤル式の黒電話や足踏みミシンのある懐かしい生活描写もユニーク。(奥山)



ごはんのつぶとおこめのつぶ

二宮由紀子文 | いたうひろし 絵

アリス館 | 2024 | 32p | 23×20 | 1500円
| 幼児から | ナンセンス、米、友だち

炊き立てのごはんのつぶが台所の床に落ちる。床には既にお米のつぶが落ちていたので、ふたりが話していると、女の子がやってきて、ごはんのつぶを踏み、ごはんのつぶはぺちゃんこになってしまう。お米のつぶはお母さんのスリッパでけとばされて部屋の隅に転がる。次の日の朝、再会したふたりはどっちが先にソックスに「あいたたた」を言わせるかを競争する。台所で起きるごはんとお米のやりとりが愉快で、絵からはその家に住む人間や猫や虫の物語も見えてくる。鮮やかな色とシンプルな線画の絵にも、ナンセンスな味わいがある。(土居)



すいぞくかんであいましょう

こしだミカ作

BL出版 | 2024 | 32p | 27×22 | 1600円
| 幼児から | 海の生き物、機械、食事

水族館では、水を濾過循環させる機械室で働く人や餌を準備したり魚たちの健康管理したりする人たちがたくさん働いている。本文では、表紙のウミガメのようにダイナミックに誇張された様々な海の生き物たちの見開きごとの絵に、関西弁で彼らの呟きが手書き文字で添えられる。それらの間に水族館の舞台裏の複雑な機械室や、そこで働く人たちの姿や仕事の様子を克明に描き込んだ見開きが挟み込まれる。海の生きものたちのユーモラスな姿と、それを支える人々の日常や機械の構造までもがわかる絶妙な構成と表現が見事だ。(野上)



まゆとブカブカブー

富安陽子文 | 降矢なな 絵

福音館書店 | 2024 | 32p | 20×27 | 1000円
| 幼児から | 林、冒険、キノコ

雨の日に、まゆがどろんこになって楽しく遊んでいると、林から逃げてきた動物たちが「あかい ぼうしの ブカブカブー」が現れた、と口々に言う。ブカブカブーって何？ 赤い怪物？ 林の中に入っていったまゆは、霧の中で巨大な赤いものが踊っているのに出会う。とびかかると、そいつは煙を吐きながら倒れて、しぼんで……どきどきするけれど、ホッとする結末が待っているので安心して読める。好奇心旺盛で元気いっぱい、やまんなの娘まゆが活躍するシリーズの1冊。(さくま)



ゆきのこえ

おーなり由子文 | はたこうしろう 絵

講談社 | 2024 | 32p | 26×21 | 1600円
| 幼児から | 雪、遊び

朝、窓の外が明るくて、男の子は目がさめた。「ゆき！ ゆきが つもってる！」。「ゆきのあさは しんとして しずか。しずか」。車も、庭の木も、植木鉢も、三輪車も、みんな雪の下で眠っているみたい。男の子はうれしくて、雪をふみしめ、雪の中であそぶ。「くすす、くすす、くすす、きゅっ、きゅっ くくくく、くふっ……」、男の子の足跡の穴ぼこが、いっぱいできた。冷たい、静かな雪の中、雪と語りあうような様子が伝わってくる。たくさんの楽しいオノマトペが、雪の絵の中に広がり、子どもたちにも雪の声を届けてくれる。(近藤)



おはなしはどこからきたの？

南アフリカのむかしばなし

さくまゆみこ文 | 保立葉菜 絵

BL出版 | 2024 | 33p | 30×22 | 1800円
| 小学低から | 昔話、動物、海、アフリカ

子どもたちに「おはなし」をせがまれても浮かんでこない母のマンザンダバは、夫のゼンゼレにすすめられて、「おはなし」を探しに旅立つ。ノウサギ、ヒヒ、フクロウ、ゾウ、ウミワシと動物たちをたずね歩き、最後にウミガメが連れて行ってくれたのは精霊の民が暮らす海の底の宮殿。ゼンゼレの木彫りの絵とひきかえに、「おはなし」が聞こえるふしぎな貝がらをもらう。架空の世界を舞台に語る、昔話の起源を伝えている。南部アフリカのズルーの人たちに伝わる話をもとにした再話に、多色刷りの木版画の力強い絵がついている。(奥山)



きょういちにちの

ラッタッタ！

柚木沙弥郎 人形 | 荒井良二 絵とことば

アリス館 | 2024 | 32p | 28×22 | 1700円
| 小学低から | 人形、音楽、劇

粘土の顔とさまざまな素材の布で作られた服を着た人形たちが、朝から夜まで「ラッタッタ ラッタッタ」と歌う音楽劇を表現した作品。町には、鳥も犬も人間もいて、猫の顔をした町長さんは、みんなからもらった缶ジュースのブルトップの勲章を身に付けて、町の人に挨拶をする。服装も表情も個性豊かな人たちが日々を楽しんでいる様子がリズムカルかつユーモラスに表現されている。人形たちの舞台となる背景の絵には、黄色い光が降り注ぎ、写真で表現された以外のキャラクターも登場して生きることの喜びを演出している。(土居)



ぼくがここに

まど・みちお詩 | きたむらさとし 絵

理論社 | 2024 | 32p | 28×23 | 1900円
| 小学低から | ゾウ、地球、自己

国際アンデルセン賞作家の詩を絵本化。「ぼくが ここに いるとき ほかの どんなものも ぼくに かさなって ここに いることは できない」と、地球上の命あるものはすべてかけがえのない存在であることをうたう。ビルが林立する大都会の俯瞰場面から歩道の大人たちの間を歩く青い服の少年にズームアップ。突然ゾウが街中に現れ、象の鼻の先と少年の手のアップ。野の草花と虫たちがびっしり描かれた後に、ゾウに乗った少年の周りに野生動物がいっぱい。画家の構想力によって、詩の世界が宇宙的スケールに広がる。(野上)



よかったなあ
 まど・みちお 詩 | あずみ虫 絵
 理論社 | 2024 | 32p | 28×23 | 1900円
 | 小学低から | 詩、自然

「よかったなあ 草や木が ぼくらの まわりに いてくれて」で始まる詩に、花や実や木や鳥や虫や動物や山や湖を描いた絵が添えられている。この地球にはたくさんの生き物がいるけれど、そのどれもが一つ一つ違う。そのことを、「よかったなあ」と、詩人はうたう。簡潔ながら奥行き深いこの詩の世界を、アルミ板をカットして絵の具で着彩した鮮やかな絵が豊かに伝えている。どの存在も、きらきらと輝きを放っていること、どんな命もすばらしいことを、観念的ではなく、子どもたちにも体感できるように伝えている。(さくま)



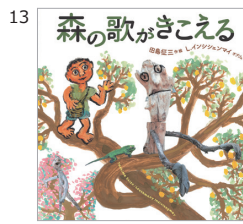
ガマ千びき イワナ千びき
 最上一平作 | ザ・キャビンカンパニー 絵
 文溪堂 | 2025 | 32p | 26×22 | 1600円
 | 小学中から | ガマガエル、イワナ、滝

滝つぼにガマがいる。そこにイワナがやってくる。イワナは滝を登ろうとするが何度繰り返しても登れない。ちっともへこたれないイワナにガマは憧れ、好きになって、ガマイワナとなることを思いつく。大嵐の日、荒れ狂う水とともに「あたらしい自分にであうんだ」というイワナは、滝の上へ行ってしまった。滝を登ることができないガマは陸に上がって、滝の上へたどりつくことができた。そこには千びきのガマと、千びきのイワナがいた。画面いっぱいに広がる表情豊かなガマとイワナ。圧倒的な迫力の絵に魅せられる。(近藤)



ギアナ・夜間飛行
 あべ弘土 作
 のら書店 | 2024 | 33p | 21×27 | 1500円
 | 小学中から | 南米、兄妹、冒険、自然

2機の飛行機の兄妹のところに、赤道直下のギアナ高地のR山に言い伝えられている光る子どもと竜の存在を確認してきてほしいという依頼状が届く。2機に分乗した兄妹がジャングルを抜け、大きな滝を越え、R山に着くと、トンネルのようになった岩穴の地面が水晶の山。その周りや岩かげに、目がくらみそうに輝く光る子どもたちが無数に見えた。竜が雨雲を呼び、嵐が来そうなので慌てて引き返す。帰路は満天の星の中での夜間飛行。ギアナ高地を取材した著者が、大自然の驚異と不思議を色鮮やかに描いた冒険ファンタジー。(野上)



森の歌がきこえる
 田島征三 作・絵 | ルートマニー・インシン
 シェンマイ オブジェ
 偕成社 | 2024 | 37p | 26×26 | 1600円
 | 小学中から | 森、精霊、薬草、織物

森の中の村にノイという貧しい少年が母と暮らしていた。村に男があらわれ、森の木を切り、「金もうけの木」を植えるようにいう。病気の母親のために薬草を取りに行った森の中で、ノイは歌を歌いながら、機を織っている美しい女の姿を見る。そして女の織物がほしくなり、盗んで逃げてしまった。ラオスの人たちが敬っているピーという精霊や、森の奥で機を織る女の伝説から生まれた作品。生物多様性への想いが込められた力強い絵から、森の生きものたちのために、木を守ることの大切さが伝わってくる。(近藤)



やくそく
 ぼくらはぜったい戦争しない
 那須正幹 作 | 武田美穂 絵
 ポプラ社 | 2025 | 32p | 27×22 | 1800円
 | 小学中から | 戦争、家族、記憶

中学生になった「ぼく」を、ばあちゃんは「にいちゃん」と間違えるようになり、毎朝「いってらっしゃい」と送り、夕方には寒い玄関で「おかえり」と迎えてくれる。ばあちゃんは、1945年8月6日の広島原爆で、兄も両親も亡くしている。小さな女の子の心にもどって兄を待ち続ける祖母に心を寄せて、「ぼく」は「ぜったい戦争なんかしない」と約束する。3歳で被爆し、平和を求める児童文学を書き続けてきた作者の遺作。素朴で明るい絵に勇気づけられる。巻末には1990年の作者のエッセイ「なぜ日本は平和なのか」も再録。(奥山)

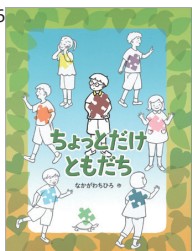


勇士アフマド
 イランのむかしばなし
 愛甲恵子 文 | 網代幸介 絵
 BL出版 | 2025 | 33p | 30×22 | 1800円
 | 小学中から | 勇士、戦い、幸運

お調子者の若者アフマドは、「やり一本で300もの敵をたおす勇士アフマド」という文句を自分の斧に彫ってもらう。この文句を周りの者たちがからかって口にするうちに、その噂が王の耳にも届く。本物の勇士と思いついた王は使いの者をアフマドのもとへ遣わし、攻め込んでくる敵から国を守ってくれと依頼する。戦わなければ処刑すると脅されて、仕方なく戦場に出たアフマドは、次々に幸運に恵まれて敵を退却させる。イランをよく知る翻訳者が再話した昔話に、伝統的な細密画や石版画を参照した愉快的絵がついている。(さくま)

日本の読みもの

16



ちよっとだけともだち

なかがわちひろ 作

のら書店 | 2025 | 55p | 21×16 | 1500円
| 小学低から | 友だち、家族、自分らしさ

自分には友だちがいないと思っている一平が、周りを見ながら友だちについて考える絵物語。一平は、妹や両親や祖母にいっぱい友だちがいるのを見て自分とは違うと思う。そして、いつもひとりの祖父には友だちがいないと思うが、実は祖父には過去にブラジル人の友だちがいた。一平は、「せかいのカメ展」で同級生に出会い、一緒にプラモデルを作り、この子とはずいぶん違うし、いろいろ合わないけれど、ちよっとだけ友だちかなと思ってうれしくなる。多様な友だち関係があることが短い文と親しみやすい絵で表現されている。(土居)

17



いぬうえくとくまざわくん

なんだかちがう いぬうえくん

きたやまようこ 作

あかね書房 | 2025 | 79p | 21×16 | 1300円
| 小学低から | 友だち、イヌ、クマ、変身

まじめで潔癖ないぬうえくと、くいしんぼうでおおらかなくまざわくんが、森の中を散歩していると、くまざわくんが転んでしまう。するといぬうえくんがくまざわくんに、ここで待っているように言ってどこかへ行ってしまふ。その後、やってきたのは、大きな犬で、くまざわくんを運ぶために急いで大きくなったいぬうえくんと言ひ張る。くまざわくんとまどいが真に迫っており、結末でわかる大きな犬の勤ちがいもユーモラス。個性の違う友だち関係が楽しく、著者によるカラーの絵も登場人物の特徴をとらえている。(土居)

18



バッターマンション

北川佳奈作 | 九波堂 絵

アリス館 | 2024 | 84p | 19×16 | 1400円
| 小学低から | マンション、昆虫、本屋、ドク
ダミ茶

「バッターマンション」と呼ばれている古いマンションには、壁のひび割れを気にしているキリギリス、お金を「じゃぶじゃぶ」使うマツムシ、恥ずかしがり屋のモンシロチョウ、商店街で飴屋をしているクワガタムシが住んでいる。大家さんのバッターは、ぴかぴかマンションに住んでいて、いつも手作りのドクダミ茶を分けてくれる。ドクダミ茶を目当てにマンションにやってくるカマキリ。まじめなトンボの本屋さんや、バッターマンションの個性豊かな擬人化された昆虫たちの暮らしが愉快で、美しい色彩の絵とともに楽しめる。(近藤)

19



うちのキチント星人

佐藤まどか作 | 中田いくみ 絵

フレーベル館 | 2024 | 160p | 21×16
| 1400円 | 小学中から | 相逢、理解、家族

4年生の千歌の家に、保護者不在となった「はとこ」の明人(あつくん)がやってきた。ひとりっ子の千歌は、最初は兄ができること期待していたものの、会ってみると、明人があまりにもきちんとしているのでとまどう。「オオザツバ星人」の千歌は「キチント星人」の明人に振り回されたり、いら立ったりするが、そのうちにふたりは、感じ方や考え方の違いを超えて、お互いのいいところを認めて仲間意識を持つようになる。自分と違うタイプの人間を受容していく過程が、さまざまなエピソードを通してリアルに描かれている。(さくま)

20



こそあどの森の物語

こそあどの森のひみつの場所

岡田淳作・絵

理論社 | 2024 | 127p | 21×16 | 1500円
| 小学中から | 秘密、ふしぎ、森

ふしぎな森に住む個性的な住人たちが繰り広げる「こそあどの森の物語」シリーズ(全12巻)の番外編。他の住人たちは知らない、それぞれがひとりで経験した「ないしょの話」が7編収められている。トマトさんが夫のポットさんのズボンを洗っているときにやってきた小鬼の話や、大工のギーコさんがカラスに教えてもらった気持ちのいい川辺の話、作家のトワイエさんが落とした鉛筆を探していて見つけた小さな花々の話など、こそあどの森の底知れぬ豊かさを感じさせてくれる。作者自身が手がけるイラストも明快で楽しい。(奥山)



21 **ちいさな花 咲いた**
野中柊作 | くらはしれい 絵
金の星社 | 2024 | 176p | 20x14 | 1500円
| 小学中から | 植物、動物、季節、命

商店街の端っこの石だたみのあいだから咲いた、季節はずれの小さな「たんぼぼ」。行き交う人びとに踏まれそうになったり、女の子につまれそうになったり、冷たい雨に濡れたりしながらも、けなげに咲く小さな花を、友だちになったカフェの子犬マールや、街猫ミーシャが、一生懸命守ろうとする。しかし、とうとう雪が降ると、花はしおれ、やがて綿毛となり、空へと飛んでいく。その変化を、子犬のマールは、驚きいっぱい受けてとめていく。擬人化されたたんぼぼや動物たちのいきいきとした会話を通して、命の循環が感じられる。(奥山)



22 **ふみきりペンギン**
おくはらゆめ 作
あかね書房 | 2024 | 111p | 22x16 | 1300円
| 小学中から | 友だち、ふしぎ、動物

左利きをからかわれてムカつく少年が、電車の踏切で5羽のペンギンに出会う。公園のヘビの遊具から舌が出てきてなめられる、という噂と一緒に調べる約束をした友だちと、気まずくなってしまった少女。「おならマン」とあだ名をつけられ、図書館にこもっている少年。学校の鏡の中にあらわれて三つ編みをならいたがるライオンや、図書館で下駄を投げて天気占いをするフクロウなど小学3年生の少年少女が出会うふしぎな現象を通して、各人が抱えた複雑な気持ちが解きほぐされ相互の友愛が生まれるのがすがすがしい。(野上)



23 **よりのぬき日本の昔話**
ももたろう ほか
さるかにかっせん ほか
小澤俊夫 再話
福音館書店 | 2025 | 各120p | 18x14
| 各1400円 | 小学中から | 伝承昔話

「桃太郎」「舌切りすずめ」「こぶ取りじい」「かちかち山」「笠地蔵」「猿かに合戦」「花咲かじい」「一寸法師」「浦島太郎」など、よく知られた24話の昔話が2巻に分けて収められ、大島妙子、高野文子、たけがみたえ、伊野孝之ら現在活躍中の個性的な画家が絵をつけている。昔話特有の語り口を十分に生かした再話は心地よく、原話の結びの言葉をそのまま取り入れた終わり方にも味がある。巻末にある、絵と文による昔の道具の説明も理解を助けてくれる。既刊の「日本の昔話」全5巻の中から選んでまとめている。(さくま)



24 **わたし、わかんない**
岩瀬成子 作 | 酒井駒子 画
講談社 | 2025 | 224p | 20x14 | 1400円
| 小学中から | 親子、学校、友だち

小学4生の少女・中は、パパとママが別居したのを契機に、両親をハハとチチと呼び、童話作家のハハと暮らしている。学校で「わかんないちゃん」と呼ばれる中を、ハハは「ものごとをよくかんがえる中は、ハハのじまん」だという。幼なじみのセンくんと怪しい男を監視中に、骨折して動けなくなった独居老人を助けるなどのできごとを通し、中は、誰もがさまざま「わかんない」を抱え、模索していることを知る。今の学校に通い続けることに限界を感じた中が、チチと暮らす決意をハハに告げるラストがさわやかだ。(野上)



25 **カフェ・スノードーム**
石井睦美文 | 杉本さなえ 絵
アリス館 | 2024 | 160p | 20x14 | 1500円
| 小学高から | カフェ、本屋、記憶

町の住宅街の中にあるツタのからまるひときわ古い家、カフェ・スノードームに、妹とけんかした小学生の萌香、高校生だった頃の自分のことを思い返す孝、おばあちゃんのことを思うつぐみ、小犬を探すぼくが入ってみると、太った謎の人物タマルさんが美味しいお茶を入れたりして迎えてくれる。いろいろな人の数えきれないほどのことを記憶しているという太ったタマルさんは会った人に幸運をもたらしてくれる。美しい挿し絵とともにカフェ・スノードームをめぐるふしぎな5つの物語に惹き込まれる。(近藤)



26 **この手はいつか**
中山聖子 作 | 保光敏将 絵
文研出版 | 2025 | 224p | 20x14 | 1500円
| 小学高から | 焼き物、いじめ、祖父

福岡に住む真潮は、級友のいたづらを注意し、それに反論されて暴力をふるい、母親が学校に呼び出されて理不尽さと情けなさを感じる。その気分のまま迎えた1学期の最終日に熱中症にかかり、疎遠になっていた陶芸家の祖父が萩から迎えに来てくれて、母と別れて夏休みを過ごす。祖父の元で陶芸を体験し、祖父の飼い犬の散歩をし、近所の少女と友だちになり、祖父と母のわだかまりを知ること、自分の母との関係や自分自身を見つめ直すことができるようになる。夏休みの経験を通して成長する真潮の様子がすがすがしい。(土居)



しじんのゆうびん屋さん

育藤倫作 | 牡丹靖佳画

偕成社 | 2024 | 130p | 20×14 | 1600円
| 小学高から | 郵便局、郵便屋、手紙、詩

小さな街の小さな郵便局で働くのは、窓口に立つタイトーと、配達をするトリノス。ある日、岬の灯台守が、誰からも手紙をもらったことがないと聞いたタイトーは、「1通め」の手紙を書いてトリノスに届けてもらう。2通目は学校に行かないトリノスの姪に、3通目は、その母親に届け、やがて手紙は街の噂になっていく。そして11通目、「ゆうびんや」という詩がトリノスに届くことになる。詩のような手紙をいろいろな人に届ける郵便屋さんから温かい思いが広がっていく物語。美しい挿画とともに、読後、余韻が残る。(近藤)



白い虹を投げる

吉野万理子作

Gakken | 2025 | 232p | 20×14 | 1600円
| 小学高から | スポーツ、チーム、家族、外国ルーツ

野球チームの新キャプテンとなった六年生の葉央と、転校して新しいチームに入ったヤヤ。離れたしまったふたりはメッセージのやりとりを続けながら、「キャッチボールクラシック」というキャッチボールの技術を競う大会で再会を目指す。地元にできた新チームに行ってしまう仲間や大腿骨の手術をしたばかりの弟に気を使う葉央と、女子で父がアメリカ人という外見から新チームになじめないヤヤだが、それぞれに工夫と明るさで悩みを乗り越えていく。チームを支える大人たちの事情なども交えた新鮮なスポーツ物語。(奥山)



シノダ!

初音一族のキツネたち

富安陽子作 | 大庭賢哉 絵

偕成社 | 2024 | 278p | 20×14 | 1400円
| 小学高から | キツネ、ファンタジー、親戚、結婚

ユイ、タクミ、モエの3人は、キツネのママと人間のパパの子ども。ある日、ママの兄の夜叉丸おじさんがユイたちの家にやってきて、恋人のミツバちゃんとの親戚の中に、人間の親戚がいることを問題だと思ふ者たちがいると言う。3人が憤慨しているところへ、ミツバの年老いた親戚3人が人間に化けてユイたちの家に調査にやってくる。そして、自分たちが平安時代から初音の鼓を守り伝えてきた由緒正しき初音一族であると自慢する。キツネ界から来る個性的な登場人物とユイたちのやりとりが楽しく、謎解きの要素も読ませる。(土居)



ワルイコいねが

安東みきえ作 | 佐藤野々子画

講談社 | 2024 | 192p | 20×14 | 1500円
| 小学高から | なまはげ、転校生、死

小6の美海は、自信もないし、嫌われたくないので自分の意見を言えない。転校生のアキトは、逆に空気を読まずに思ったことを言ってしまい、「性格が悪い」と言われている。美海はアキトと仲よくなるが、やがてアキトが老人の死に興味を持ち葬式に出かけているのを知ると不安になる。独特の感受性をもちながらも性格が正反対の二人の少女のやりとりが、秋田の「なまはげ」の文化を背景にして描かれ、アキトが亡くなった祖父に対して切ない思いを抱えていることが明らかになっていく。心理描写が見事で一気に読ませる。(さくま)



あたたかな手

なのはな整骨院物語

濱野京子作

偕成社 | 2025 | 206p | 19×13 | 1500円
| 中学生から | 整骨院、人間関係

語り手である新米の柔道整復師・西田春哉は、なのはな整骨院に就職したばかりで、さまざまな事情を抱えた人びとや小学生たちと出会う。たとえば星良は母親から虐待を受けている。凌太は父の期待を背負う少年野球チームのエースだが肘の痛みを抱えている。美桜は病弱の姉にかかりきりだった親につらい気持ちを言い出せない。そんな子どもたちを「あたたかな手」で治療しながら、晴哉もこの仕事の意味を見出していく。現代の子どもが直面する諸問題を取り入れながらも、人の交流のぬくもりを感じさせてくれる物語。(さくま)



放課後によむ詩集

小池昌代編

理論社 | 2024 | 144p | 17×13 | 1800円
| 中学生から | 詩、詩集、孤独、放課後

「一人の孤独から書き起こされる詩は、『読むほうも孤独になる必要があるかもしれない』「詩はそこに詩としてあることがすべてで、本来、無目的なもの」と語る編者が選んだ31の詩が紹介されている。まど・みちお、宮沢賢治、中原中也、茨木のり子、カミングズ、シンボルスカなど、気鋭の詩人による現代詩、古今東西の詩に、編者の言葉が寄り添っている。巻末には「詩人紹介&ブックガイド」が掲載されており、詩人たちの十代のころのエピソードなども読むことができる。ひとりになった時にじっくり読みたいアンソロジー。(近藤)



みかんファミリー

椰月美智子 著

講談社 | 2024 | 256p | 20x14 | 1600円
| 中学生から | 家族、友だち、古民家、女性

離婚した母と祖母との3人暮らしだった中1の美琴は、突然、母の中学時代の友人朱美さんと、朱美さんが若いころに生んだ娘の優菜さん、孫の野々花の3人と、古民家で同居することになる。スマホばかり見ている優菜さんや、実は同級生で生物部の変わり者野々花にとまどう美琴だが、当番を決めて料理や掃除をしたり、庭で畑を作ったりしながら、打ち解け合っていく。祖母の交通事故、優菜さんの家出、母の病気など心配は尽きないが、たとえ「未完」であっても補い合って家族のつながりを作っていく6人の姿があたたかい。(奥山)



ハロハロ

こまつあや 作 | イワイアイミ 絵

講談社 | 2024 | 190p | 20x14 | 1500円
| 中学生から | フィリピン、お菓子、友だち

病気のため、1週間遅れて高校に行き始めたのは花は友だちがいない。しかし、療養中に母に勧められてオンライン英会話レッスンを始め、フィリピン人の先生に恋をしたことから、フィリピン文化に興味を持ち、フィリピン人の母を持つ同級生の風羽と友だちになる。の花は、風羽の家で「ハロハロ」というデザートをごちそうになり、風羽とクッキング部に入部して地域のお祭りで「ハロハロ」を売ることになる。の花がフィリピン文化に親しんでいき、そこから友だち関係が広がる様子が生き生きと描かれている。(土居)



ヤングタイマーズのお悩み相談室

石川宏千花 作 | 飯田研人 装画・挿絵

くもん出版 | 2024 | 200p | 20x14 | 1500円
| 中学生から | ラジオ、悩み、中学生

ヤングタイマー車が好きな俳優とミュージシャンがパーソナリティを務めるラジオ番組の「ヤングタイマーズのお悩み相談室」コーナーのやりとりと、それを聴く中学生の日常を描いた作品。相談室に寄せられた悩みについてふたりが対話をしながら考え、相談者が悩みを前向きに捉えるようになる様子が6話収められている。悩みは、友だち関係やアイデンティティの問題や社会への怒りなど。パーソナリティのユーモラスで温かい語りから、どんな悩みも本人にとっては深刻で、ひとつの答えがあるのではないということが伝わる。(土居)

日本のノンフィクション



おせち

内田有美文・絵 | 満留邦子 料理
| 三浦康子 監修

福音館書店 | 2024 | 32p | 20x27 | 1000円
| 幼児から | 伝統、料理、正月

つややかな黒豆、しっとりした伊達巻き、照りのある田作りが、整然と重箱に並ぶ。これは写真ではなく、漆の重箱の内側に写るかまぼこ昆布巻きまでも精緻に描き込んだ絵本。リズムカルな言葉で文化の奥深さまで紹介する。日本の正月の伝統料理「おせち」には、新年を寿ぎ、幸せに暮らせるようにという祈りが込められ、どの食材や形、色にも意味がある。松葉や笹などの飾り葉の紹介も興味をそられる。見開きいっぱい、口取りの一の重、焼き物の二の重、煮物の三の重がていねいに描かれ、細部まで確かめたくなる。(坂口)



たいせつなたまご

キッチンミノル 作

白泉社 | 2024 | 24p | 21x21 | 1200円
| 幼児から | 畜産、労働、食、命

平飼いでアニマルウェルフェアの理念に従って経営されている養鶏場「ハコニワ・ファーム」の卵生産の様子をまとめた写真絵本。毎朝、ニワトリの健康チェックをする「こいけさん」、エサやり担当の「かねこさん」、掃除担当の「うえのさん」……といった具合に、働く人とニワトリたちの様子が見聞きごとにわかりやすくまとめられている。やがてニワトリたちはつやつやの卵を産み落とし、卵は洗卵場で洗われ、パックされて、店から食卓へと届く。ニワトリ、働く人々、産まれる卵、それぞれの命が大切にされている様子が伝わってくる。(奥山)



たんぽぽはひとがすき

埴沙萌 写真 | 嶋田泰子 文
ポプラ社 | 2025 | 42p | 21×26 | 2000円
| 幼児から | 野草、四季、花

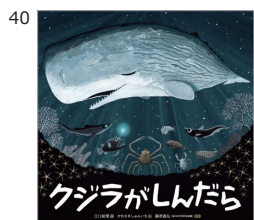
人が暮らしている近くでよく見かけるタンポポは、他の植物が育ちにくいコンクリートの隙間や、道路脇などでも生育する。タンポポの花にはたくさんの花びらがあるように見えるが、そのひとつひとつが雄蕊と雌蕊のある花なのだ。花が咲き終わると綿毛になり根元に種がつく。それを円形に並べると火花が開いたように美しい。綿毛が風に飛ばされて種があちこちに運ばれる。タンポポは踏まれても掘り起こされても負けない。その秘密は地中深く伸ばした根にある。身近な野草の不思議な生態をたくさんの写真で紹介した絵本。(野上)



かがくすつ
**つめたいこおり
どんなかたち?**

細島雅代 写真 | 伊地知英信 構成・文
岩崎書店 | 2024 | 32p | 25 × 19 | 1400円
| 幼児から | 水、温度、自然

水が冷えて固まると氷になる。氷は冷蔵庫の冷凍室でできるが、自然の中では寒い季節にいろいろな氷ができる。土の中で水分が凍った霜柱。高いところから垂れた水が凍ると氷柱になる。滝の水が凍って、高さ 13 メートル、周囲が 8 メートルもの巨大氷柱になった写真には圧倒される。空から降って来る雪も、空で凍った小さな氷の粒。雹や霰も氷。寒くなるとバケツや池の水も凍る。様々な氷のでき方や色々な形態の氷を紹介した写真絵本。池で凍らせた氷を切り出して削ったかき氷の美味しそうな写真で締めくくるとも楽しい。(野上)



クジラがしんだら

江口絵理 文 | かわさきしゅんいち 絵
| 藤原義弘 監修
童心社 | 2024 | 40p | 25×26 | 1800円
| 小学低から | クジラ、深海生物、命

私たちが見ることのできない深海の底にも、真っ暗闇の中で、食べものを長い間じっと待っている生きものがある。ある日、死んだマッコウクジラが沈んできた。真っ先に気づいたのはユメザメ。鋭い歯でクジラの皮膚を切り裂く。ユメザメが去ると、コンゴウアナゴ、タカアシガニ、ウニなどが次々に群がる。肉がすっかり食べ尽くされても、ホネクイハナムシが骨を食べに来て卵を産む。死んだクジラが深海の生物たちの命をつないでいく様子を、目を引く絵と文で表現した絵本。巻末には、登場する生物についての紹介もある。(さくま)



テントウムシみつけ!

里中正紀 構成・文
徳間書店 | 2025 | 32p | 18×26 | 1700円
| 小学低から | 昆虫、観察、飼育

幼い子どもでもテントウムシを見つけやすいよう、どの草に多くいるのかなど、探し方の手がかりを、大きくはっきりした写真と、すべての漢字に振り仮名のある文章で紹介する。体の構造、卵から幼虫、3回の脱皮、蛹を経て成虫になるまでの変化の連続写真や、ナナホシテントウのほか 16 種の写真、育て方の説明もあり、身近で見つけやすい昆虫をきっかけに、子どもを自然観察へと誘う。触るとひっくり返る理由や、アブラムシを食べるテントウムシをアリが攻撃するわけなど、自然界の巧みな関わりも伝える絵本。(坂口)



みることば さわれることば
手話えほん2
ともだち
スギヤマカナヨ 作 | 吉岡昌子 手話監修
あすなろ書房 | 2024 | 60p | 17×17
| 1600円 | 小学低から | 手話、会話、聴覚障害

手話を使う人も使わない人も、言語としての手話に興味を持ち、会話を楽しめるよう促す絵本。ろう者とコーダ（聴覚障害のある親に育てられた聴覚障害のない子ども）の2人の少年が紙飛行機で遊びながら、手話でコミュニケーションをとる姿を、シンプルで明るい絵が描きだす。欄外には手話の表現方法だけでなく、関連する手話や、表情や動作についての説明もある。手話の動画が見られる QR コードや、巻末には索引があり、使いやすい工夫が随所にある。何よりもお互いをわかり合おうという気持ちが大事であると伝える。(坂口)



命のつながり7
**いつも仲間といっしょ
エナガのくらし**

東郷なりさ 作 | 江口欣照 写真
文一総合出版 | 2024 | 48p | 26×18
| 2000円 | 小学中から | 野鳥、四季、家族

尾羽が長く、ふわふわした羽毛に覆われ、7グラムしかない可愛いエナガは、天敵に狙われないためにいつも群で暮らしている。危険を察知すると鳴き声で仲間と知らせ合うのだ。ときにはメジロやシジュウカラなど他の種類の鳥たちと群を作ることもある。小さくて素早く飛び回るから写真に収めるのも難しいのだが、9羽もが小さな体を寄せあって夜の寒さをしのぐ姿や、巣作りからヒナが育つまで、四季を通してのエナガの珍しい生態を見事に捉えた画期的な写真絵本。巻末のQ&Aも楽しくて分かりやすい。(野上)



巨石運搬！ 海をこえて大阪城へ

鎌田歩 作
アリス館 | 2024 | 36p | 27×22 | 1600円
| 小学中から | 城、石垣、技術

城の普請には本丸をはじめ、多様な建築土木工事が必要になる。その中で石垣を築いた職人たちの技を丹念に描いた絵本。400年前、瀬戸内海の小豆島で、石工たちはノミ、ゲンノウなど手作りの道具で巨石を切り出し、シュラヤロクロを使って巨石を人力で船に積み、大阪に運んだ。その石は今も大坂城の石垣に残り、ひときわ目をひく。折り畳みページを広げると、作業の進み具合が時の流れとともに描かれ、石工歌や舟歌などからは、人々の誇りと熱気が生き生きと伝わってくる。歴史を支えた職人たちの技と心を伝える力作。(坂口)



「植物」をやめた植物たち

末次健司 文・写真
福音館書店 | 2024 | 40p | 26×20 | 1300円
| 小学中から | 光合成、植物、生存戦略

動物は自ら食べものをとって、外の栄養を取り込んでいる。植物は水と二酸化炭素から光合成をして自ら養分を作る。ところが、現在わかっている約30万種の植物のうち約千種は光合成をしない。葉緑素を持たず、白、赤、青など変わった色を持ち、その多くが1cm以下。ではどう生きるのか。実は森の分解者である菌類を巧みにだまして栄養を得ている。自家受粉や、昆虫や動物に種を運んでもらうなど、巧妙な「生存戦略」を美しいカラー写真とわかりやすい絵で紹介する。研究の最前線も紹介し、好奇心が刺激される絵本。(坂口)



世界の納豆をめぐる探検

高野秀行 文・写真 | スケラッコ 絵
福音館書店 | 2024 | 48p | 26×20 | 1300円
| 小学中から | 納豆、料理、アジア、アフリカ

体に良くておいしい納豆は日本だけでなく、世界中のいろいろな場所で食べられている。アジアでは大豆で納豆を作っているが、アフリカではナイジェリアの「ダワダワ」など、マメ科の木の実から納豆をつくっている。食べ方はさまざまでミャンマーでは長持ちさせるためにせんべいになっているなど、世界中のいろいろな納豆料理を紹介している。30年以上、アジア、アフリカ、南米などに残る辺境の地を巡ってきた著者が、7年間かけて、人びとにとって大事なタンパク質でもある世界の納豆について調べ、興味深く伝えている絵本。(近藤)



そうだったのか! カタツムリとナメクジ

嶋田泰子 著 | はたこうしろう 絵
童心社 | 2025 | 135p | 22×15
| 1300円 | 小学中から | 生態、飼育、進化

偶然出会ったカタツムリの進む速さを測りたくなかった著者は、まず身近なナメクジを、その後カタツムリを飼育した。カタツムリの体のつくりを観察し、約3億1千万年前、海の巻貝から進化したわけを探り、冬眠と夏眠をくり返す姿から、大量絶滅期の厳しい環境を生き延びた要因のひとつにたどりつく。また、カタツムリから進化したナメクジは体の水分を保つための殻を捨てた代わりに、粘液を豊富に分泌することに気づく。両者の飼育を通じて、予期せぬ出来事が謎解きのヒントになり、飼育の楽しさを伝える読みもの。(坂口)



ともに生きる 山のツキノワグマ

前川貴行 写真・文
あかね書房 | 2024 | 32p | 26×19 | 1500円
| 小学中から | 共存、クマ、自然

本州と四国に住むツキノワグマは、日本の生態系の頂点にいる野生動物。その姿と日本の自然の美しさをみずみずしいカラー写真で伝える絵本。7月の東北の森では、湖畔の茂みに隠れたクマを探す。8月には湖の岸に流れ着いた魚をとる姿や、豊かな自然の中でゆったりと構える姿も見られる。だが近年、中山間地域の高齢化や過疎化などで、人との接触が増えている。人とクマの生息域の境を保つことがいっそう急務になる。まっすぐ見つめるクマの瞳に向き合い、どう共存するか、人としての行動を考えるきっかけにしたい。(坂口)



ひろい海にぼくたちは 生きています

長倉洋海 文・写真
アリス館 | 2024 | 50p | 26×23 | 1800円
| 小学中から | 海、自由、自然

世界の3つの場所(西太平洋のスルー海とカピングマランギ環礁、アフリカのマダガスカル島)で自然とともに暮らす海の民やその子どもたちの様子を、魅力的な写真とともに伝える絵本。小さな舟で海を自由に行き来し、自然の恵みをもって、それを分け合って暮らす人たちの手作りの暮らしは、AIやロボットに囲まれ、領土をめぐる戦争や憎悪にさらされている私たちに、それとは違う幸せがあることを示してもくれる。「国境や、人とのへだたりのない『海』を、ぼくも、心のなかに持ちたい」という著者の言葉が印象深い。(さくま)



もしも明日、ぼくの足がなくなったら

舟崎泉美 著

Gakken | 2025 | 192p | 20×14 | 1300円
| 小学高から | 障害、義足、スポーツ

足を切断して生活している5人を取材した読みもの。中2で骨肉腫のために足を切断し、義足で走り始めたみなみさん、義足を使ってパラリンピックへの出場を夢見る高校生の柚稀くん、うつ病を患い、16歳のときの電車との接触事故が元で車いすを使って生活しているsakiさん、29歳の時けがで膝下を切断し、義足で走れるようになったケイさん、股関節義足を装着し、イラストレーターとして仕事をする須川さん。個々の症状や生活上の問題点がていねいに取材されていて、バリアフリーとは何かについて考えさせられる。(土居)



子どもも兵士になった 沖縄・三中学徒隊の戦世

真鍋和子 著 | 多屋光孫 絵

童心社 | 2025 | 239p | 20×14 | 1800円
| 中学生から | 戦争、沖縄、学徒兵

沖縄県立第三中学校に入学した子どもたちがいやおうなく戦争に巻き込まれていく様を描く。14歳以上の生徒は、満足な訓練を受けられぬまま正式な兵士となった。1945年4月の地上戦では、砲弾の嵐の中、歩兵や通信確保のため前線に立ち、多くの死傷者が出た。沖縄にルーツを持つ兄弟がアメリカ兵として現れた例もあり、沖縄の板挟みの状況が象徴的に示される。生き残った生徒の手記と証言は、死と隣り合わせの日々を生々しく伝え、実名で描かれる行動は圧倒的な存在感で迫る。戦争の本質的なむごさを突きつける読みもの。(坂口)



これから大人になるあなたに 伝えたい10のこと

自分を愛し、困難を乗り越えるカ

サヘル・ローズ 著

童心社 | 2024 | 223p | 20×14 | 1500円
| 中学生から | 自伝、いじめ、差別

イランに生まれ、マスコミや舞台などで「表現のお仕事」にたずさわる著者が、自分の過酷な歩みを正直に語る。戦争孤児となり、養母との来日、貧困、路上生活、いじめ、性虐待、差別など、いくつもの困難を越えてきた著者の言葉は、心の奥底から発せられ、読者に寄り添い続ける。同じ時代、同じ場所で生きるすべての子どもを受け入れ、応援しようとするまっすぐな表現に、著者の思いが深くにじみでている。世界に目を向け、自分と他者を結びつけながら、自分を褒め、愛することの大切さを強く訴える読みもの。(坂口)

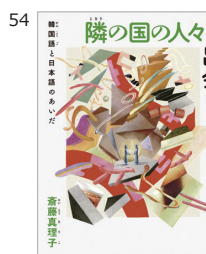


障害のある10代のための 困りごと解決ハンドブック あなたがあなたらしく生きるための ヒント

野口兎菜/松波めぐみ 編著

現代書館 | 2025 | 256p | 21×15 | 2000円
| 中学生から | 障害、困難、解決法

子どもが直面する困りごとを、学校、友だち、恋愛、家族、進路、暮らし、はたらくこと、楽しみ、障害の9つに分け、具体的な手立て61件をわかりやすい言葉とイラストで解説。すべての漢字にふりがながあり、相談先や参考図書、先輩たちの体験談も紹介する。障害の有無に関わらずさまざまな状況の子どもを思うまっすぐな姿勢が伝わる。誰もが安心して過ごせる社会を目指し、本人が困っていることを伝え、周囲がともに考えて実行する合理的配慮の大切さを強調している。子どもと正面から向き合う、ていねいな姿勢の読みもの。(坂口)



シリーズ「あいだで考える」 隣の国の人々と出会う

斎藤真理子 著

創元社 | 2024 | 160p | 17×13 | 1400円
| 中学生から | 韓国語、朝鮮語、言葉、詩

韓国文学の翻訳者である著者が、自身の韓国語との出会いから、朝鮮半島の歴史、ハングルが生まれたことなどをわかりやすく記している。様々な歴史的な事例をあげて、その中で、この言語を学ぶ誰もが「あいだ」で生きていると述べていることが印象深い。韓国語が豊富な「ソリ(声)」を持つ言語であり、韓国が詩の国であることなどもよく理解できる。巻末の作品案内では、本文中で引用、紹介している作品の情報が掲載されていて役立つ。「あいだ」を考えるための多様な視点を伝える「あいだで考える」シリーズの1冊。(近藤)



〈弱いロボット〉から考える 人・社会・生きること

岡田美智男 著

岩波書店 | 2024 | 246p | 11×17 | 990円
| 中学生から | ロボット、研究、社会

筆者が大学の研究室で学生たちとおこなっているロボット研究の様子や、そこから生まれた「弱いロボット」の意義についてまとめた新書。子どもたちに手伝ってもらってゴミを集めるロボットや、よたよたと歩いたり、おどおどと会話したりするロボットなど、「弱いロボット」を通して、相互関係のなかで協働していく生き方を提案している。利便性や効率性ばかりを是とする社会を問い直す視点が貴重。自由な議論とあり合わせの材料から、他者の手を借りながら活動するユニークなロボットが生まれてくる研究の過程も面白い。(奥山)

まだまだあります おすすめ本

絵本
 読み物
 ノンフィクション



おーい
 蟹江杏作
 ほるぷ出版 | 2024 | 28p
 | 25×25 | 1600円
 | 幼児から | ナンセンス、
 動物、穴



せっせ せっせ
 花山 かずみ 作
 福音館書店 | 2024
 | 24p | 22×21 | 1000円
 | 幼児から | ナンセンス、
 山、砂遊び



パパさんぽ
 きくちきよこ 作
 文溪堂 | 2025 | 24p
 | 21×19 | 1300円
 | 幼児から | クマ、
 お父さん、散歩



りょうこうにいこう!
 五味太郎 作
 偕成社 | 2024 | 32p
 | 21×22 | 1400円
 | 幼児から | ナンセンス、
 家族、旅



このほしのこども
 吉田尚令 作
 あかね書房 | 2024
 | 34p | 24×25 | 1600円
 | 小学低から | 平和、
 地球、子ども



**花売りセンパチュン
 チュン**
 ネバール・ヒマラヤの
 むかしばなし
 茂市久美子 文
 | アヤ井アキコ 絵
 B L出版 | 2025 | 32p
 | 29×22 | 1800円
 | 小学低から | 昔話、
 病気、失敗



**じんせいはいしがみつ
 いてなんぼです**
 木坂涼詩
 | 長谷川義史 絵
 フレーベル館 | 2025
 | 80p | 22×20 | 1700円
 | 小学中から | 詩集、
 動物、人生



**朝読みのライスおば
 さん**
 長江優子 作
 | みずうちさとみ 絵
 理論社 | 2024 | 190p
 | 19×14 | 1400円
 | 小学高から | 読書、
 保護者、新聞



**思いがけず、
 朝子ちゃん**
 高村有作
 | せきやよい 絵
 童心社 | 2025 | 247p
 | 20×14 | 1500円
 | 小学高から | 中学生、
 花屋さん、悩み



全校生徒ラジオ
 有沢佳映 作
 | トミイマサコ 絵
 講談社 | 2024 | 240p
 | 23×18 | 1500円
 | 中学生から | ラジオ、
 過疎、不登校



ミルクィウェイ
 竹雀農業高校牛部
 堀米薫 著
 新日本出版社 | 2024
 | 176p | 19×13 | 1500円
 | 中学生から | 高校生、
 牧畜、クラブ活動



呼ぶ人は旅をする
 長谷川まりる 作
 偕成社 | 2024 | 254p
 | 19×13 | 1500円
 | 中学生から | 旅、孤独、
 特別な能力



シロナガスクジラ
 加藤秀弘 文
 | 大片忠明 絵
 福音館書店 | 2025
 | 28p | 26×23 | 1200円
 | 幼児から | クジラ、旅、
 出産



工場大ずかん
 つくりかたしり隊がいく!
 うえたに夫婦 作
 偕成社 | 2025 | 40p
 | 30×22 | 1800円
 | 小学中から | 工場、
 道具、製造過程



**地理学者シリアへ
 行く**
 小口高文
 | 山本美希 絵
 アリス館 | 2025 | 38p
 | 31×22 | 1600円
 | 小学中から | 発掘、ネア
 ンデルタール人、洞窟



写真絵本 はたらく
はたらく中華料理店
 吉田亮人 写真
 | 矢萩多聞 文
 創元社 | 2024 | 24p
 | 16×26 | 2200円
 | 小学中から | 仕事、
 食堂、家族



ぼくの算数絵日記
 瀨山士郎 文
 | タイガー立石 絵
 福音館書店 | 2025
 | 40p | 26×20 | 1300円
 | 小学中から | 算数、
 友だち、日記



**野生生物は「やさしさ」
 だけで守れるか?**
 命と向きあう現場から
 朝日新聞取材チーム 著
 岩波書店 | 2024 | 222p
 | 17×11 | 940円
 | 中学生から | 動物、命、
 環境

おすすめ！ 世界の子どもの本

世界の絵本



1 **あかりをひとつ ともしてみたら**

クリスティ・マシソン 文
| アヌスカ・アレブス 絵
| ふしみさを訳

光村教育図書 | 2025 | アメリカ (英語)
| 40p | 26×26 | 1600円 | 幼児から
| 嵐、停電、思いやり

雨と風がつめたい夕方、停電で町は真っ暗に。ひとりぼっちのように感じたコトリちゃんは「こんな気持ちになる人がほかにもいるかもしれない」と、ランタンに火を灯し、玄関先に置く。イヌの散歩の途中、その光に元気をもらったサムは、帰ると窓辺に明かりを灯す。自転車で通りかかったハリエツがその明かりに気づき……。小さな思いやりの気持ちがリレーのようにつながり、やがて町は光に包まれる。柔らかな質感と温かみのあるイラストも美しい。ひとりひとりの行動が世界を変えるというメッセージが、素直に心に届く。(笹岡)



2 **こぐまの いばしょ**

ブリッタ・テッケントラップ 作
| 三原泉 訳

B.L出版 | 2024 | イギリス (英語) | 32p
| 25×25 | 1800円 | 幼児から | 森、居場所、
クマ、難民

居心地のいい洞穴で幸せに暮らしていた子グマが、ある日、山火事のせいで避難を迫られる。逃げた先で新たな巣穴を探すが、先住者たちに追い払われてしまう。とうとう知らない森まで来て泣いていると、リスや小鳥が話しかけてくれる。見ず知らずの動物や鳥が、孤独な子グマをやさしく受け入れるのだ。そのぬくもりに包まれた子グマは、何もかもが違うとはいえ、そこが自分の居場所だと思えるようになる。難民の子どもにもつながる子グマの心の動きを、カラージュを使った絵でていねいに伝えている。(さくま)



3 **しゃっくりガイコツ**

マージェリー・カイラー 文
| S.D. シンドラー 絵 | 椎名かおる 訳

あすなる書房 | 2025 | アメリカ (英語) | 32p
| 25×25 | 1500円 | 幼児から | ガイコツ、
しゃっくり、ユーモア

しゃっくりで目が覚めたガイコツくん。「ひゃっくり びゃっくり ぴょっくり」。何をしても、しゃっくりは止まらない。息を止めたり、逆立ちして水を飲んだり、友だちのおばけくんに怖い顔や大声で驚かせてもらったり……。いろいろ試してみるけれど、やっぱりだめ。その時、おばけくんがある方法をおいつく。なんとかしてしゃっくりを止めようとする真剣なガイコツくんと、役に立たないアドバイスを繰り返すおばけくんのやり取りがユーモラスで、笑いを誘う。意外なおチも楽しい。2004年セーラー出版刊の新訳・新装版。(笹岡)



なんていいひ

リチャード・ジャクソン 文
| スージー・リー 絵 | 東直子 訳
小学館 | 2024 | アメリカ (英語) | 38p
| 27×19 | 1800円 | 幼児から | 雨、喜び、
オノマトペ

雨の中、3人の子どもが傘を片手に外へ飛び出す。歌って、踊って、とびはねて……。やがて雨が上がり、雲間から徐々に青空がのぞく。ほかの子たちも次々にやってくる。「なんていいひ… さあ、はじけちゃおう!」。光の中を走り回る子どもたちは、躍動感にあふれ、喜びに満ちている。モノクロに青を差し色にしたイラストは、後半、天気の変化とともに色彩豊かに変化する。オノマトペを用いた弾むようなテキストと、のびやかな絵が響き合い、読者の心も軽やかに解放されていく。どんな日も特別な1日になり得るのだと思わせてくれる。(笹岡)



ネコになりたかったクモのルイーゼ

ミシェル・ヌードセン 文
| ケビン・ホクス 絵 | 福本友美子 訳
岩崎書店 | 2024 | アメリカ (英語) | 38p
| 30×26 | 1700円 | 幼児から | クモ、
ペット、友だち

古い家に入り込んだ大きなクモを、そこに住む目の悪いお婆さんはネコだと思いつく。お婆さんはこのクモをルイーゼと呼び、おもちゃで遊ばせたり、ベッドを作ってくれたりしてかわいがる。クモは、こういう暮らしも悪くないと思い、ネコになってみることに。ところがある日、ネコではないことがバレてしまう。あわてて逃げ出すクモだったが、お婆さんは「あなたのままで いいの。それでもやっぱり わたしのともだちで いてくれる?」と声をかける。ユーモラスな絵とストーリーから、あたたかい気持ちが伝わってくる。(さくま)



ゆきのもりのおくりもの

リンデ・ファース 作 | 西村由美 訳
岩波書店 | 2024 | オランダ (オランダ語)
| 40p | 30×23 | 1900円 | 幼児から
| クリスマス、父と子、オーロラ

父親が仕事で忙しく、クリスマスなのに放っておかれたソフィーは、朝まだ暗いうちにひとりで出かけていく。雪が降りしきる中、1頭のヘラジカと会い、森へと誘われていくと、クリスマスツリーにぴったりの小さなもみの木が1本。その夜、動物たちと一緒にもみの木を飾り終えると、ソフィーを探しにきた父親がやってくる。その時、空一面に美しいオーロラが現れる。親子と一緒にクリスマスを祝う喜びが、絵から伝わってくる。雪の森など自然の描写も魅力的。(神保)



ワニのクロコ

アンドレス・ロペス 作 | 宇野和美 訳
BL出版 | 2024 | メキシコ (スペイン語)
| 34p | 23×15 | 1500円 | 幼児から | ワニ、
失敗、涙

ワニのクロコが、穴にかかっていた倒木の上を渡っていたが、その木が折れたため、深い穴に落ちてしまう。へびに「くるくる まきついて のぼっておいで」と言われて試すが、うまくいかない。小鳥の羽のように足をばたばたしても、サルのようにのぼろうとしても、動物たちに引っ張り上げてもらおうとしてもうまくいかない。とうとうクロコが泣き出すと、穴が涙でいっぱいになり、クロコは穴から脱出できる。細長い縦開きの判型の絵が、深い穴に落ちたクロコと地上の動物たちの様子をユーモラスに表現している。(土居)



あこがれの図書館

パトリシア・ポラッコ 作 | 福本友美子 訳
さ・え・ら書房 | 2024 | アメリカ (英語)
| 56p | 29×23 | 1700円 | 小学低から
| 図書館、読書、鳥

農村から大きな街へ引っ越したパトリシアは、やがて街の図書館に通いはじめる。読み書きが苦手なパトリシアだが、美しい画集をみつけて夢中になる。児童室の司書クリーピーさんは、パトリシアが鳥が好きだと知ると、今度は特別に大型の鳥の本を見せてくれる。その本との出会いは、パトリシアに学ぶ喜びと、絵を描く自信を与えてくれる。パトリシアが鳥の絵をクラスで見せると「鳥」がクラスの学校公開のテーマになる。自分の得意なことがわかり人からも認められる喜びが、絵からあふれ出ている。(神保)



あと2時間で新年です ちょうのもようのかざと イランの子もたちのおはなし

ファルハード・ハサンザーデ 文
| ガザーレ・ビグデル 絵 | 愛甲恵子 訳
トップスタジオHR | 2025 | イラン (ペルシア語)
| 32p | 28×23 | 2200円 | 小学低から
| 新年、イラン、チョウ、傘

イランの1年は3月21日頃におとずれる「春分」からはじまる。新年の祝祭ノウルーズを前に、街は車や人であふれ、みんなが急いでいる。床屋の順番を待つ子、仕立て屋のベルを押し続ける子、花が売れなかった兄妹……、新年までに終わらないのではないかという不安が画面から伝わってくる。モノトーンの画面に、子どもたちを見守る黒ネコや、ほとんどのページに黄色いチョウが描かれ、新しい年への時間を見守っている。新年を迎える直前の街と子どもたちを詩情豊かに描いた、異文化を知ることのできるグラフィックノベル。(近藤)



シッゲのおうちはどこ？

ステイーナ・ヴィルセン/セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデン 作
| きただいえりこ 訳

子どもの未来社 | 2024 | スウェーデン
(スウェーデン語) | 60p | 22×16 | 1700円
| 小学低から | ネグレクト、家族、里親

いつも疲れていて子どもの面倒を見ないママと2人暮らしのシッゲの元に、シーブと名乗る女の人がやってきて食べ物を与える。その後、2人の大人がママを連れ去り、シッゲもベビーカーに乗ってシーブと家を出る。7歳になったシッゲは、里親と暮しており、ママとも運がよければ会うことができ、里親をレイヤママと呼ぶようになっている。子どもの視点が貫かれており、絵がたっぷりあることで、幼い子どもにもネグレクトの状況とそこから抜け出す方法が理解できる。巻末にシッゲの物語をもとに話し合うためのヒントが掲載されている。(土居)



チョウになりたい

マルク・マジスキ 作 | 吉井知代子 訳

金の星社 | 2024 | アメリカ (英語) | 41p
| 31×22 | 1600円 | 小学低から | 変身、ジェンダー、いじめ

子どもが身長2倍ぐらいの長さのオレンジ色のチョウの羽を作って、チョウに変身して外へ出ていく。羽を広げてチョウになりきって踊っていると、出会った子どもたちが、羽を引っぱってぼろぼろにしていじめる。チョウになった子は羽を草原に捨てて家に閉じこもるが、パパが抱きしめてくれ、ふたりはもう一度チョウの羽を作る。子どもは再びチョウになって外へ行き、今度はいじめっこたちを無視していると、その中のひとりが近づいてきて一緒に遊ぶ。大きな羽を広げた子どもの絵が、チョウに変身する楽しさを伝えている。(土居)



ぼくのひみつのともだち

フレヤ・ブラックウッド 作
| 椎名かおる 文 (原書は文字なし)

あすなろ書房 | 2024 | オーストラリア
(英語) | 40p | 29×23 | 1700円
| 小学低から | 森、友だち、救出

主人公の少年は、学校にはなじめず、親は忙しく、家の近くにある森だけが心休まる場所になっていた。でもある日、その森の土地が売られ、木々が切り倒されることになった。さあ、たいへん。夜の間に、森にいる者たち(少年には、ゾウやキリンなど動物の形に見える)を別の場所へと移動させなくては。幻想的な絵とストーリーが、男の子の心象風景を物語っていく。森が移動した先で、みんながうれしい驚きを感じていたり、移動を見ていた少女がいたりすることから、読者は物語の先や少年の未来もいろいろに想像できそうだ。(さくま)



わたしのくつしたはどこ？

ゆめみるアデラと目のおはなし

フロレンシア・エレラ 文
| ベルナルディータ・オヘダ 絵
| あみのまきこ 訳

岩崎書店 | 2024 | チリ (スペイン語) | 57p
| 26×21 | 1700円 | 小学低から | イヌ、視覚障害、福祉

引き出しにあるはずの赤い靴下が見つからない、仕事場への通勤路が分からないなど、研究所で働くダックスフントのアデラにおかしなことが続いている。いったい何が起きているのか。視野がだんだん狭くなり、目が見えなくなっているということ、藍色のページにあいた丸い穴の仕掛けとともに、子どもたちに分かりやすく伝えている。作者自身の実体験を基にして作成されたバリアフリー絵本で、変化を受け止める前向きな姿勢が心地良い。巻末に「視覚障がいについて」の解説と「手助けをする際の注意」が載っている。(近藤)

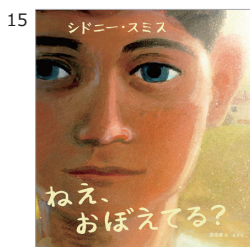


きみは、ぼうけんか

シャフルザード・シャフルジェルディー 文
| ガザル・ファトゥッラーヒ 絵
| 愛甲恵子 訳

ブロンズ新社 | 2024 | イラン (ペルシャ語)
| 32p | 26×20 | 1400円 | 小学中から
| 難民、戦争、兄妹

窓ガラスや家具が破壊された部屋で、兄から「ぼうけんかになりたくない？」と伝えられる幼い妹。戦火に追われ難民となって安全なところへ逃げていく旅を、冒険の旅だと思ふことにした兄と妹の物語。過酷で辛い逃避行も「これは冒険なんだ」と、想像力を働かせ鼓舞することで、先へと進む力を得る。絵は、兄妹の服以外はモノクロで表現されているが、最終ページでは、全面カラーで彼らにとっての安心安全な場所が描かれる。厳しい現実を描きつつも、その先に生きる希望があることを表現している。(神保)



ねえ、おぼえてる？

シドニー・スミス 作 | 原田勝訳

偕成社 | 2024 | アメリカ (英語) | 40p
| 26×24 | 1600円 | 小学中から | 母親、家族、記憶

「ねえ、おぼえてる…？」パパと3人でピクニックに行った日に食べた甘い野イチゴ。ぼくの誕生日に新しい自転車で転び、笑ったこと。嵐で停電した夜に灯したランプのにおい……。父と別れ、住み慣れた家を離れた母と息子が、新たな暮らしを始めた日の夜にベッドで寄り添い、家族3人が仲睦まじかった日々を振り返る。やがて太陽のぼり、ふたりだけで迎える「はじめての朝」がやってくる。作者が自身の子どもの時代の体験をもとに、卓越した光と影の表現で、喜びと痛みを記憶を繊細に描き、静かで深い余韻を残す。(笹岡)



ぼくはくまのままで いたかったのに…… (新版)

イエルク・シュタイナー 文
| イエルク・ミュラー 絵 | 大島かおり 訳
ほるぶ出版 | 2024 | スイス (ドイツ語) | 32p
| 25×25 | 2000円 | 小学高から | クマ、
アイデンティティ、工場

1頭のクマが冬眠から目覚めて穴から出ると、地上には人間が建てた工場があり、職長にも工場長にもクマと認めてもらえない。社長は、動物園とサーカスにしかクマはいないと言い、クマは作業服を渡されて、ほかの労働者とともに働き始める。秋がくるとクマは機械の前で眠りこけてしまうようになり、職長にくびにされる。クマであることを忘れたクマはモーターへ行くが、クマであることを理由に拒絶され、雪の降る中、森へ入り、洞穴の前で途方に暮れる。シュールな絵と皮肉の効いたストーリーが人間社会を鋭く批判した1987年刊の新版。(土居)



戦争は、

ジョゼ・ジョルジュ・レトリア 文
| アンドレ・レトリア 絵 | 木下真穂 訳
岩波書店 | 2024 | ホルトガル (ホルトガル語)
| 60p | 23×19 | 2000円 | 中学生から
| 戦争、警告、詩

絵本を開くと、不穏な、文字のない画面が続く。そして、そのあとは、「戦争は、」で始まる、詩のような手書き文字の文章のあるページが続いていく。こうした詩のような短文のあるページは、やがて絵だけのページになり、あるリズムをもって効果的に文が入れられていて、めくっていくことで、この絵本の圧巻の表現に惹きつけられる。ガザから報道されてくる子どもたちの姿に、大人としての責任が問われ、戒められる思いだが、警告の書ともいえるこの絵本は、中高生だけでなく、この時代を生きるすべての人に手渡したい。(近藤)

世界の読みもの



サメのイエニー

リーサ・ルンドマルク 作
| シャルlotte・ラメル 絵
| よこのな 訳
岩波書店 | 2025 | スウェーデン
(スウェーデン語) | 156p | 16×22
| 1700円 | 小学中から | サメ、水族館、個性

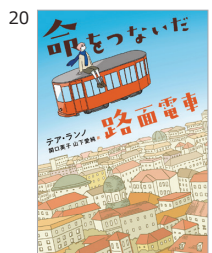
イエニーは小2の女の子。教室で手をあげたり意見を言ったりするのは苦手、ひとりであるのが好き。でも先生やお母さんは、もっと積極的になってほしいとか、大きな声で発言してほしいと願っている。イエニーが心を寄せるのは、サメ。群れを作らずにひとりで泳ぐところが自分に似ているからだ。イエニーはサメの本をたくさん読むし、水族館のサメと話もできる。個性豊かな主人公の、家庭や学校での日常を描いた作品で、読んでいっているうちに、みんなと同じじゃなくなっていていいよね、と思えてくる。挿絵もユーモラスで楽しい。(さくま)



魔女がやってきた!

マーガレット・マーヒー 作
| 尾崎愛子 訳 | はたこうしろう 絵
徳間書店 | 2024 | ニュージーランド (英語)
| 128p | 16×22 | 1500円 | 小学中から
| 魔女、魔法使い、ユーモア

デイビッドとお母さんがカップケーキを焼いていると庭のサクラの木におりてきてなんとかケーキをもらおうと画策する滑稽な魔女を描く「サクラの木の上の魔女」、勝手に自分の影を男の子に預けていく魔女を描く「ふたつのかけを持った男の子」、医者になるより詩人になりたかったトムがいつの間にか魔女に人気の医者になって美しい魔女と結婚する「魔女のお医者さん」など、変わり者だけど憎めない魔女たちが出てくる短編が5つ。はたこうしろうが描く親しみやすい魔女たちの挿絵とともに楽しみながら読むことができる。(神保)



命をつないだ路面電車

テア・ランノ 作 | 関口英子/山下愛純 訳
| カンワイ 絵
小学館 | 2024 | イタリア (イタリア語)
| 224p | 14×20 | 1500円 | 小学高から
| 戦争、ホロコースト、路面電車

1943年、戦時下のローマ。12歳のユダヤ人の少年エマヌエーレは、ナチスに連行された母を助けようとして捕まるが、脱出して路面電車に逃げ込む。見つければ連行される恐怖の中、車掌や乗客に守られ、2日半を電車内で生き延びる。その後ローマは解放されるが、母を待つ家族に悲しい知らせが。実話をもとに少年の一人称で描かれる物語は臨場感あふれ、戦争の残酷さ、理不尽な差別への憤り、迫害への恐怖が鮮明に伝わる。辛い時も前を向いて生きる少年と、危険を顧みず信念に従って行動した大人たちの姿が胸を打つ。(笹岡)



21 **コメディ・クイーン**
 イェニー・ヤーゲルフェルト 作
 |ヘレンハルメ美穂 訳|中田いくみ 絵
 岩波書店 | 2024 | スウェーデン
 (スウェーデン語) | 278p | 13×19
 | 2100円 | 小学高から | 死別、グリーフケア、
 笑い

12歳の少女サーシャは母がうつ病で自殺したことで、母のようになりたくないといふ決意する。そこでサーシャは母を否定する7つのリストを作って生きることにした。髪の毛をバリカンで短くし、コメディアンを目指すというのもそのためなのだ。涙を流すことができないほど凍りついたサーシャの心は、児童精神科の心理士リンとの対話で徐々に氷解していく。叔父のオツシヤクラスメートのマツタなど周囲の助けもあり、サーシャが母の喪失という傷に向き合い、父親にも心を開き、成長していく姿を瑞々しく描く。(神保)



22 **ソリアを森へ**
マレーグマを救ったチャーンの物語
 チャン・グエン 作 | ジート・ズーン 絵
 | 杉田七重 訳
 鈴木出版 | 2024 | ベトナム (英語より重訳)
 | 119p | 31×22 | 1700円 | 小学高から
 | 自然保護、野生生物、クマ、熱帯雨林

子どもの頃、胆汁を採取するためのクマ工場を見てショックを受けたチャーンは、動物保護を仕事にしようと決心する。そしてクマの救助センターで働くようになると、親をなくしたマレーグマの子ソリアを育て、独力で行きられるように訓練し、安全な森に帰そうとする。最初のうちトカゲやカエルにもびくびくしていたソリアだが、やがて力をつけ、自分で食べ物や配偶者を見つけられるようになる。自然保護活動家と漫画家というベトナム人コンビが、ソリアの成長や熱帯雨林の様子を生き生きと描くグラフィックノベル。(さくま)



23 **ダンス★フレンド**
 カミラ・チェスター 作 | 榊田理絵 訳
 | 早川世詩男 絵
 小峰書店 | 2024 | イギリス (英語) | 206p
 | 14×20 | 1700円 | 小学高から
 | かんもく症、読み書き、ダンス、友情

11歳の少年レオは、場面かんもく症のため、家族以外の人の前では声が出せず、学校で孤立していた。夏休みのある日、隣の家に同い年の少女リカが引っ越してくる。レオが黙っていてもまったく気にせず話しかけてくる陽気なリカ。しかしインド系移民の子である彼女も、読み書きができないという悩みを抱え、誰にも言えずにいた。誤解やすれ違いを経ながらも、ダンスという共通の興味を通じ、二人が友情と信頼を育て、それぞれの抱える困難をともに乗り越えていく姿が爽やかに描かれる。一步踏み出す勇気を与えてくれる。(笹岡)



24 **ぼくたちは宇宙のなかで**
 カチャ・ベレン 作 | こだまともこ 訳
 | 嶽まいこ 装画
 評論社 | 2024 | イギリス (英語) | 256p
 | 13×19 | 1600円 | 小学高から
 | 自閉スペクトラム症、死、家族、暗号

フランクは、サッカーと宇宙と暗号が好きな10歳の少年。5歳の弟マックスは自閉スペクトラム症で、ところかまわず奇声を発したりする。母親は懸命にマックスに寄り添おうとするが、フランクは弟を恥ずかしく思うことへの罪悪感や、何かと弟が優先される寂しさに、葛藤している。そんな家族を予期せぬ悲劇が襲う。支えを失い、ばらばらになりかけた家族が、互いを理解し、再び前を向けるようになる過程が丁寧に描かれ、温かな読後感。障害を持つ子どもたちと接してきた著者による確かな描写が物語に深みを与えている。(笹岡)



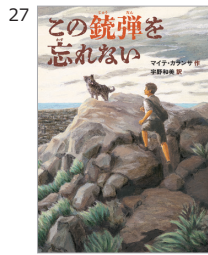
25 **ぼくのはじまったばかりの人生のたぶんわすれない日々**
 イーサン・ロング 作・絵 | 代田亜香子 訳
 鈴木出版 | 2024 | アメリカ (英語) | 278p
 | 14×20 | 1700円 | 小学高から | 家族、
 学校、カウンセリング

10歳のベニーは両親が離婚後、兄や妹とともに父親と暮らす。父親の病気がわかり、不安で夜も眠れない。怒ると自分をコントロールできず、怒りを止められないベニーはカウンセリングを受けることになる。やがて父親がガンで亡くなり、死後、父親からの贈り物がベニーに届く。作者自身の子ども時代の経験をもとに描かれた物語には、ほぼ全ての頁に作者自身による挿絵が入っていて子どもたちへのエールが伝わってくる。巻末の作者からの言葉に救われ共感する読者がいるのではないかと希望が持てる一冊。(近藤)



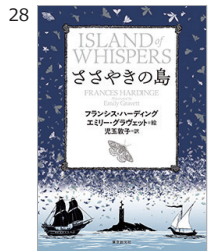
26 **アドニスの声が聞こえる**
 フィル・アール 作 | 杉田七重 訳
 小学館 | 2024 | イギリス (英語) | 400p
 | 13×19 | 1800円 | 中学生から | ゴリラ、
 戦争、動物園

識字障害を持つ戦争孤児のジョーゼフは、第二次世界大戦下のイギリス、ロンドンに地方からやってきて動物園を経営する謎の女性、ミセス・Fに預けられる。空襲に見舞われる動物園で飼育の仕事をしていく中で、ゴリラのアドニスと出会い、心を通じ合わせ、惹かれていく。戦況の悪化で、猛獣として殺処分の対象となるアドニスの姿は衝撃的だが、大切なものを失った者同士としてアドニスと触れ合い、安らぎを得ていくジョーゼフの姿に、希望の光が感じられ、印象深い。(近藤)



この銃弾を忘れない
 マイテ・カランサ作 | 宇野和美 訳
 | 吉實恵 装画
 徳間書店 | 2024 | スペイン (スペイン語)
 | 224p | 14×19 | 1700円 | 中学生から
 | スペイン内戦、旅、犬

1938年、内戦時代のスペイン。13歳の少年ミゲルは、行方不明になっていた父が遠く離れた収容所にいると聞き、母の頼みで連れ戻すために犬とともに旅に出る。内戦中のスペインでの実話を元に描かれた物語で、犬とのふれあい、人間の悲しみ、苦しみ、そして優しさ、家族愛が描かれている。子どもたちが戦禍に巻き込まれないようにという著者の想いが伝わる作品で、スペイン内戦については「訳者あとがき」に詳しく説明されている。戦いを繰り返さないためにも歴史を知ることの大切さを改めて感じる一冊だ。(近藤)



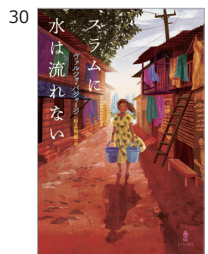
ざさやきの島
 フランシス・ハーディング 作
 | エミリー・グラヴェット 絵
 | 児玉敦子 訳
 東京創元社 | 2024 | イギリス (英語)
 | 120p | 14×20 | 2200円 | 中学生から
 | 生と死、島、自立

マイロの父は死者の魂を船に乗せて死者の国へ送る渡し守だ。人々は死者の靴を渡し守へ預ける。そうしないと死者がさまよい歩くからだ。しかし領主は娘の死を受け入れられず、渡し守から靴を取り戻し魔術師のまじないで娘を蘇らせようとする。マイロは領主に殺された父の代わりに渡し守の役割を担って船を漕ぎ出す。人が避けて通れない死とどう向き合うのかを、父との死別で自立を余儀なくされたマイロの成長を通して考えさせる。エミリー・グラヴェットの描く幻想的な挿絵には、物語の中へと引き込む力がある。(神保)



死の森の犬たち
 アンソニー・マゴワン 作
 | キース・ロビンソン 絵 | 尾崎愛子 訳
 岩波書店 | 2024 | イギリス (英語) | 318p
 | 13×19 | 2000円 | 中学生から | 原発事故、犬、野生

旧ソビエト連邦ウクライナのプリピャチに住むナターシャは、7歳の誕生日に真っ白な子犬をもらって喜び、ゾーヤと名付ける。ところがその翌日、チェルノブイリ原発が爆発し、ナターシャの一家は子犬を置いて避難せざるをえなくなる。野生で生きるしかなくなったゾーヤと、その子ミーシャとブラタンはどう生き延びたのか？ ゾーヤとの悲しい別れが忘れられないナターシャはその後どうなったのか？ 最初はバラバラに現れる糸が、読んでいくうちに一つの織物になっていくストーリー展開が見事。(さくま)



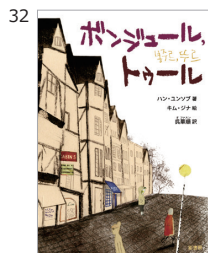
スラムに水は流れない
 ヴァルシャ・バジャージ 著 | 村上利佳 訳
 あすなろ書房 | 2024 | アメリカ (英語)
 | 240p | 14×20 | 1600円 | 中学生から
 | スラム、水、カースト、貧困

インドの大都市ムンバイ。スラムに暮らす12歳の少女ミンニの家には、水道が通っていない。毎日、長時間並んで共同水道の水を汲む。ある晩、共同水道から水を盗む水マフィアに遭遇し、ミンニと兄は命を狙われる。ミンニたちは貧富の差にも悩む。ミンニの学費を稼ぐために働いていた母親が病気になる。ミンニが働くことになる。カースト制が残るインドで、貧しくても互いに助け合うスラムの人たちが描かれていて、世界の社会問題に目を向けていくことの大切さを伝えてくれる作品として秀逸だ。(近藤)



ぼくの心は炎に焼かれる
 植民地のふたりの少年
 ビヴァリー・ナイドゥー 作 | 野沢佳織 訳
 徳間書店 | 2024 | イギリス (英語) | 232p
 | 14×19 | 1700円 | 中学生から | 植民地、ケニア、差別

舞台は、イギリスの植民地だった1950年代のケニア。土地を奪った白人の子孫である11歳の少年マシューと、使用人である13歳の黒人の少年ムゴの友情や信頼関係の変化を通して、大人社会の暴力で子どもの日常が破壊される様子を描いている。白人移住者への抵抗闘争「マウマウ」に直面しても、既存の価値観に縛られたままのマシューと、否応なく子ども時代を卒業して社会の荒波をかぶらざるをえないムゴが対比され、差別がシステムとして存在する社会では、だれひとり自由ではいられないことが示唆されている。(さくま)



ボンジュール、トゥール
 ハン・ユンソプ 著 | キム・ジナ 絵
 | 呉華順 訳
 影書房 | 2024 | 韓国 (韓国語) | 218p
 | 14×19 | 1800円 | 中学生から | 朝鮮人、友情、朝鮮半島

商社マンの父を持つフランス在住の韓国人ホンジュは12歳。パリからトゥールの借家に引っ越すと、「愛するわが祖国 愛するわが家族 生きぬかなければ」と書かれたハングルの落書きを見つける。誰が書いたのか、ホンジュは元の住民が誰かをひそかに探っていく。すると同じクラスの日本人トシがその家に昔住んでいたとわかる。トシは本当に日本人なのかという疑問が、ふたりの関係を変えていく。大人が築いた壁を若い世代はどう乗り越えるのか。南北に分断された朝鮮半島の歴史へも目を向けさせる。(神保)



**メイジー・チェンの
ラストチャンス**
金原瑞人選モダン・クラシックYA
リサ・イー 著 | 代田亜香子 訳
| 華鼓 装画
作品社 | 2025 | アメリカ (英語) | 248p
| 14×19 | 2200円 | 中学生から | 移民、
おじいちゃん、中華料理店

ママとふたり暮らしのメイジーは、疎遠になっていた祖父が病氣だと聞く。そこで、メイジーとママは、夏休みに祖父母がチャイニーズレストランを営むラストチャンスという町を訪れる。ママと祖母はけんかばかりするが、メイジーは祖父に、中国から来た祖父の祖父ラッキーの人生を語ってもらい、アメリカでの中国移民の困難を知る。その間にレストランのお守りのような大きな木彫りのクマが盗まれ、メイジーは根深い差別に気づく。メイジーと祖父母や町の人たちとのあたたかい交流が生き生きと描写されている。(土居)



**木曜生まれの子どもたち
(上・下)**
ルーマー・ゴッデン 作 | 脇明子 訳
| 網中いづる 絵
岩波書店 | 2025 | イギリス (英語)
| 上巻340p/下巻280p | 12×18
| 上巻880円/下巻830円 | 中学生から
| バレエ、姉弟、才能

姉クリスタルと弟ドゥーンを主人公にしたバレエ物語。元ダンサーのふたりの母は、クリスタルをバレリーナにしたいと必死で、望まれない子であったドゥーンは母の愛情なく育つ。バレエ教室へ行くクリスタルについていったドゥーンは、バレエに夢中になり、先生方も彼の才能を認める。そんな中で、クリスタルはドゥーンに嫉妬しながらも、バレエを続ける。姉弟ふたりの深い苦悩が心に残る。すべての登場人物が個性的で、作者のストーリーテラーの才能が発揮されている。借成社刊『バレエダンサー』の新訳。(土居)



闇に願いを
クリスティーナ・スートンヴァット
著 | こだまともこ/辻村万実 訳
静山社 | 2024 | イギリス (英語) | 420p
| 14×20 | 1800円 | 中学生から
| ファンタジー、権力、魔法

火の使用が禁じられ、総督の魔法で生み出される光だけが唯一のエネルギーであるチャッターの街。刑務所で生まれたポンは、9歳の時、刑務所から逃げ出し、山のお寺でチャム師に助けられ、13歳まで修行に励む。ところが、刑務所長の娘ノックがやってきて、ポンを刑務所へ戻そうとする。ポンは寺を逃げ出し、刑務所で親友で、総督の魔法以外の方法で「光」を集めるようとしているソムキットと再会し、スラム街の人々とともに、独裁者である総督に抵抗を始める。正義のために闘う子どもたちの活躍が興味深い。(土居)

世界のノンフィクション



**きょうりゅう
レントゲンびょういん**
キョン・ヘウォン 作 | こまつようこ 訳
| 真鍋真 監修
バイ インターナショナル | 2024 | 韓国
(韓国語) | 56p | 26×18 | 1400円
| 幼児から | 恐竜、骨格、研究、レントゲン

恐竜の病院に、つぎつぎに恐竜がやってきて診察が始まる。背中に並ぶいくつもの板が邪魔で悩むステゴサウルスは、レントゲン画像で、その骨が体温調節に最適だとお医者さんから説明され、悩みが解決。長い首を前に伸ばすディプロドクスは、首を上を伸ばす恐竜をまねて首がつり、コルセットで首の骨を固定してもらおう。前足が短いティラノサウルスは、手の動きに合う「まごのて」を処方され、自由に歯を「ホジホジできる」ようになる。レントゲンに映る骨から、最新研究にもとづく恐竜の体のしくみと特徴をゆかいに伝える絵本。(坂口)



さあ、めがねをかけよう!
ヘレナ・ハラシュトヴァ 作
| アナ・コーベン 絵 | 越智典子 訳
| 中山百合 監修
偕成社 | 2025 | チェコ (チェコ語・英語)
| 32p | 25×21 | 1800円 | 小学低から
| 眼鏡、視力、目の構造、歴史

学校検診で視力低下が見つかり、低学年から眼鏡をかける子どもが増えてきている。この絵本は、楽しい話題を通して、眼鏡をかけることへのハードルを下げる。目の構造や視力低下のしくみ、検査や眼鏡の役目などのほか、眼鏡をかけるとお金持ちや物知りに見える、と昔はみんなが眼鏡をかけたがったという歴史、機能満載の未来の眼鏡、動物ごとの物の見え方、色や形もさまざまなフレームなどを楽ししいイラストで描く。眼鏡をかけているジョーとキティと一緒に、目を大切にすること、眼鏡のある生活のよさをやさしく伝える。(坂口)



38

宇宙ステーション おしごと大図鑑

DK社 編 | 野口聡一 日本語版監修
| 桑原洋子 訳

河出書房新社 | 2024 | イギリス (英語)
| 160p | 29×23 | 2900円 | 小学中から
| 宇宙飛行士、重力、宇宙ステーション、仕事

子どもたちが大人になる頃、宇宙はもっと身近な存在になっているだろう。宇宙への第一歩となる国際宇宙ステーション (ISS) での暮らしを、さまざまな視点から豊富な写真とともに紹介する。宇宙飛行士の訓練や日々の仕事、微小重力の ISS での生活の工夫、未来のミッションまで幅広く取り上げ、ISS と宇宙飛行士の姿を余すところなく伝える。用語解説や索引も充実しており、子どもの「知りたい」気持ちに応える。興味のあるところから読みすすめられる構成も魅力で、宇宙に関わる仕事の多様さも実感できる。(坂口)



39

わたしはみつけた! バージニア・アプガー博士の 赤ちゃんの命をすくう発明

キャリー・A・ピアソン 文
| ナンシー・カーペンター 絵
| さくまゆみこ 訳

子どもの未来社 | 2024 | アメリカ (英語)
| 41p | 26×21 | 1800円 | 小学中から
| 新生児、健康、検査、女性

日本の赤ちゃんも、生まれて最初に受ける検査は、健康状態をチェックする「アプガースコア」。1949年にアメリカの麻酔科医アプガー博士が考案し、世界中で使われ、多くの赤ちゃんの命を救ってきた。この絵本では、アプガースコア誕生の背景と、博士の生い立ちや仕事を紹介する。女性であるというだけで医師への道が困難だった時代に、粘り強さとユーモア、失敗しても立ち直る力を持ち続けた博士の生涯を、親しみやすい文と柔らかな絵で描く。巻末には年表と作者あとがきも収録され、理解を深めてくれる。(坂口)



40

あなたの権利を知って使おう 子どもの権利ガイド

アムネスティ・インターナショナル/
アンジェリーナ・ジョリー/ジェラル
ディーン・ヴァンビューレン 著
| 上田勢子 訳

子どもの未来社 | 2024 | イギリス (英語)
| 280p | 20×13 | 1800円 | 小学高から
| 子どもの人権、差別、平等

国連「子どもの権利条約」に基づく15の権利から、生きる権利や差別されない権利、遊ぶ権利などをひとつずつわかりやすく解説し、「でも、現実には？」と、守られていない状況を示す。世界各地の具体例を通して、多くの子どもたちの権利が侵害されている現実を伝える。さらに、権利のために行動した子どもや若者の姿を写真とともに紹介し、権利を主張する方法も示す。語句解説や関連団体一覧も収録し、だれでも、どこに住んでいても、すべての子どもが自分の権利を知り、使えることを目指して書かれたガイドブック。(坂口)



41

ルビーの一步 私たちすべての問題

ルビー・ブリッジズ 著 | 千葉茂樹 訳

あすなろ書房 | 2024 | アメリカ (英語)
| 64p | 19×14 | 1300円 | 小学高から
| 黒人、人種差別、平和

アメリカ南部の白人だけが通う小学校に、1960年、黒人の少女ルビーが入学した。学校への行き帰りには、少女を守るために4人の連邦保安官が護衛にあたった。公民権運動の高まりから学校の人種分離政策が撤廃されての入学だったが、白人保護者たちの抗議は凄まじかった。見開き右ページの写真のなかでも、棺に納めた黒人の人形を掲げて抗議する写真は衝撃的だ。たったひとり残った先生と教室で学び、ルビーが踏み出した「一步」を、人種差別の歴史的な報道写真や表紙画「私たちすべての問題」とともに、未来に向けて読み続けたい。(近藤)



42

レオがのこしたこと ヴェステルボルク収容所の 子どもたち

マルティネ・レテリー 作 | 野坂悦子 訳

静山社 | 2024 | オランダ (オランダ語)
| 160p | 20×14 | 1400円 | 小学高から
| ユダヤ人、ホロコースト、オランダ、少年

「家の呼び鈴が鳴ります。」という書き出しから、一気に読ませる読物。両親とオランダで幸せに暮らしていた7歳の少年レオは、突然現れたドイツ兵によって、家族3人で強制収容所へ送られる。絵が好きなレオが持ち出せたのは、色鉛筆と画用紙。闇に紛れて家畜運搬車に乗せられ、息苦しい収容所生活を送る中、9歳で父から引き離され、移送先のアウシュビッツで母とともに命を落とす。生き延びた父が密かに持ち出したレオの描いた絵や、友人が描いた9歳のレオの肖像画、写真を通して、奪われた命の事実と重みが胸に迫る。(坂口)



43

リーゼ・マイトナー 核分裂を発見した女性科学者

マリッサ・モス 著 | 中井川玲子 訳

岩波書店 | 2024 | アメリカ (英語) | 262p
| 19×13 | 2200円 | 中学生から | 物理学者、女性、周期表、原爆

ユダヤ人女性物理学者の、差別と迫害の生涯をていねいに追う読物。女性の高等教育が困難な時代、彼女は粘り強く学び、研究を続けた。ようやく科学者として認められた矢先、ナチス政権に目をつけられ、命からがらスウェーデンへ亡命する。自らの発見をもとにした核兵器開発に反対する一方、核分裂の研究成果は共同研究者に奪われ、ノーベル賞は彼女には授与されなかった。功績が認められたのは死後30年後。周期表109番元素は、彼女の名から「マイトネリウム」と命名された。歴史に埋もれた人生を掘り起こす1冊。(坂口)

まだまだあります おすすめ本

絵本 読み物 ノンフィクション



キツネザルの あったかいセーター
ウルリカ・ケステレ 作
| 石井登志子 訳
徳間書店 | 2024
| スウェーデン
(スウェーデン語)
| 28p | 29×22 | 1800円
| 幼児から | セーター、
友だち、オーロラ



じゃがいもうえたら...
ユリ・リトケイ 作
| 山根玲子 解説訳
BL出版 | 2024 | スイス
(フランス語) | 54p
| 21×26 | 1900円
| 幼児から | ジャガイモ、
栽培、土



ぬすまれたねむねむ
アナテ・メレツェ 作
| 椎名かおる 訳
あすなろ書房 | 2024
| ラトビア (英語) | 33p
| 27×19 | 1700円
| 幼児から | 睡眠、家族、
おもちゃ



うえをみて!
チョン・ジンホ 作
| 斎藤真理子 訳
ハッピーオウル社 | 2024
| 韓国 (韓国語) | 44p
| 31×18 | 1500円
| 小学低から | 車いす、
友だち、交通事故



海辺の村のパン屋
ポーラ・ホワイト 作
| いけださちこ 訳
BL出版 | 2024 | イギリス
(英語) | 32p | 27×21
| 1600円 | 小学低から
| お父さん、パン屋、仕事



せかいいち大きな女の子のものがたり 新装版
アン・アイザックス 文
| ポール・O. ゼリンズキー 絵
| 落合恵子 訳
富山房 | 2024 | アメリカ
(英語) | 40p | 31×24
| 2100円 | 小学低から
| クマ、ジェンダー、ほら話



まぼろしの巨大クラゲをさがして
クロエ・サベージ 作
| よしいかずみ 訳
BL出版 | 2024 | イギリス
(英語) | 32p | 31×22
| 1800円 | 小学低から
| 旅、クラゲ、北極海



モリスさんとオレンジいろのドレス
クリスティーン・バルダ
チーノ 文 | イザベル・
マランファン 絵
| まえざわあきえ 訳
世界文化社 | 2025 | カナダ
(英語) | 32p | 27×20
| 1600円 | 小学低から
| ジェンダー、ドレス、友だち



おおきなて
チェ・ドッキュ 作
| 申明浩 訳
ひだまり舎 | 2024 | 韓国
(韓国語) | 36p | 25×20
| 2000円 | 小学中から
| 手、成長、文字なし絵本



煙のように消えるねこ
リンダ・ニューベリー 作
| 田中薫子 訳
| 丹地陽子 絵
徳間書店 | 2025 | イギリス
(英語) | 80p | 22×16
| 1500円 | 小学中から
| ネコ、おばあさん、幽霊



バラクラバ・ボーイ
ジェニー・ロブソン 作
| もりうちすみこ 訳
| 黒須高嶺 絵
文研出版 | 2024
| 南アフリカ (英語)
| 112p | 21×15 | 1400円
| 小学中から | 転校生、
マスク、秘密



カトリーンの王
ヤン・テラウ 作
| 西村由美 訳
| にしざかひろみ 絵
小学館 | 2024 | オランダ
(オランダ語) | 344p
| 18×13 | 1600円
| 小学高から | ファンタジー、
王、試練



探検家
キャサリン・ランデル 著
| 越智典子 訳
ゴブリン書房 | 2024
| イギリス (英語) | 384p
| 19×13 | 1700円
| 小学高から | 遭難、
探検家、サバイバル



ぼくの中にある光
カチャ・ペーレン 作
| 原田勝 訳
岩波書店 | 2024 | イギリス
(英語) | 250p | 19×13
| 2200円 | 小学高から
| 再婚、家族、願い



夜の日記
金原瑞人選モダン・クラシック
YA
ヴィーラ・ヒランガンニ 著
| 山田文 訳
作品社 | 2024 | アメリカ
(英語) | 240p | 19×13
| 2200円 | 中学生から
| インド、旅、双子



イグアドンのツノはなぜきえた?
すがたをかえる恐竜たち
ショーン・ルービン 作
| 千葉茂樹 訳
岩崎書店 | 2024 | アメリカ
(英語) | 48p | 30×24
| 1600円 | 小学中から
| 恐竜、研究、化石



世界ではじめての女性大統領のはなし
ラウン・フリーゲンリング 著
| 朱位昌 併訳
平凡社 | 2024 | アイスランド
(アイスランド語) | 48p
| 29×22 | 1900円
| 小学中から | アイスランド、
大統領、ジェンダー



ウクライナ わたしのもも思いたして
戦地からの証言
ジョージ・バトラー 作
| 原田勝 訳
小学館 | 2025 | イギリス
(英語) | 240p | 19×13
| 2000円 | 中学生から | ウク
ライナ、戦争、インタビュー

おすすめ！日本と世界の子どもの本

Japanese and Translated Children's Books

2026

一般社団法人 日本国際児童図書評議会

発行日：2026年3月31日 第1刷

発行人：宇野和美

選書・執筆：奥山 恵、近藤君子、坂口美佳子、さくまゆみこ、笹岡智子、神保和子、土居安子、野上 暁

編集進行：植村志保理、上村令、高野直子、堀内まゆみ

デザイン・レイアウト：山崎美紀

表紙画：あべ弘士

特別協賛：一般財団法人 日本児童教育振興財団

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

TEL: 03 6273 7703 FAX: 03 6273 7708

E-mail: info@jbby.org

<https://jbby.org/>

© JBBY, 2026

